

理事功程

文部省

二

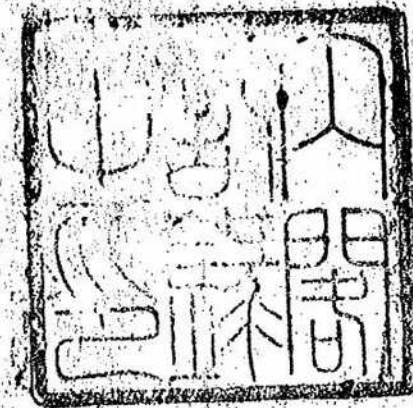
147			
2			
五 國	架	六 冊	十 類 使大

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	33-5
	① 271

經事功釋

佛國

四



正理院
記録
學制大意

程卷之四 目次

文部省

第一諸官制并文部上議院ノ事

第二大學區ノ事

巴勒府大學區ノ事

小學

學校監察ノ事

成人學校ノ事

書庫ノ事

中學

リセーノ事

區ノ「コレージュ」ノ事

私立中學校ノ事

大學

大學區ノ管轄ニ屬セサル學校

賞譽

各省ニ屬シタル學校

學制教育憲法并ニ施行ノ規則

第一千八百五十年三月十五日ノ法

第一篇 教育諸官ノ事

第一條 文部上議院ノ事

第二條 大學議會ノ事

第三條 學校ノ事并ニ監察ノ事

其一 學校ノ事

其二 監察ノ事

第二篇 小學ノ事

第一條 通則

第二條 教官ノ事

其一 公私小學校教官條例

其二 私學教官條例

其三 區教官ノ事

第三條 區學校ノ事

第四條 カントン代理及他ノ小學掛

官負ノ事

第五條 女學校ノ事

第六條 補學校ノ事

其一 小學寄宿校ノ事

其二 成人學校并ニアラランチノ學

校ノ事

其三 幼稚學校ノ事

第三篇 中學ノ事

第一條 私立中學校ノ事

第二條 官立中學校ノ事

第四篇 通則

假設ノ規則

正理院
記録

程卷之四

制大意

百年代ニ當テ既ニ教育事務局數多アリ

之ヲ概稱シテユニヴェルレテ「ト云リ就中巴勒

府ユニヴェルレテ「ヲ上等トス他諸局ノ則做ス

ル慶タリ

シヤル、マーニニ紀元七百七十一ノ時既ニ數種ノ

學校アリレト雖モ未タ之ヲユニヴェルレテ「ノ

基礎ヲ起シタル人ト目シ難シ

巴勒府ノユニヴェルレテ「ハ一千二百年ニ創起

シ其長官^レ大學長官ト云リ
一千一百六十九年ニ於テ學生ヲ分テ四國民ト
ス各耶蘇教ノ國皆此中ニアリタリ即チ佛朗西
ビカルヂー^レ諾曼的日耳曼是ナリ
此時ニ當テハ大學ヲ神學、理學ノ二校ニ分チ各
校ノ長ヲ「^レアイアン」ト云リ一千二百年代ニ至リ
更ニ醫學、法學ノ兩校ヲ創造セリ
ユニ^レヴルシテ^レニ特權アリテ一黨ヲ為シ屢政
治上ニ付テ商議シケレハ一千七百九十四年三
月二十日ノ布告ニ由テユニ^レヴルシテ^レヲ廢シ

諸州ニ散布スル二十三局モ皆同時ニ廢止シタ

リ

拿破侖^{ナポレオン}第一世一千八百〇六年五月十日一千八
百〇八年三月十七日及ヒ一千八百十一年九月
十五日都合三回ノ布告ヲ以テユニ^レヴルシテ^レ、
ド、フランス^レヲ起シ其長官ヲ「^レランモートル」即
今ノ文ト云リ今日ノ文部ハ少ク此制ヲ釐革ス
部卿
ル者ナレハ文部ノ基礎ト為ル者ハ即之ナリ

文部省

第一 諸官制并ニ文部上議院ノ事

文部省ハ宗旨及ヒ印書、音樂、繪画、劇場等ヲ兼管スル者ニシテ其省内ヲ三寮ニ分ツ則左ノ如シ

第一 小學寮

第二 中學寮

第三 大學寮

總テ會計及ヒ隱居料等ヲ取扱フ所ハ別ニ一寮ヲ設ク

宗旨及ヒ藝術ノ管轄ハ屢變革アリ後一千八百七十年九月四日以來遂ニ文部ニ屬セリ即チ現今共和政治布告ノ日ナリ

寮内ヲ三局或ハ四局ニ分チ每局ニ局長及副局

長アリ寮ノ長官ハ寮頭ニシテ文部卿或ハ書記

長或ハ^{子元}納閣議長等ト直ニ書狀ヲ往復ス

每局ニ五人或ハ八人ノ司務アリ每局又事務章

程アリ即チ官負掛教育掛及ヒ訴訟、賞罰、會計、度

支掛等ノ如キ是ナリ

司法官、僧徒、教官、及ヒ徳望アル平民等ヨリ大約

三十人ヲ舉ケ文部上議負ト名ケ大事件アル時

ハ輒チ集會シテ文部卿ヲ輔ケシム

大監察官數人ヲ三部ニ分チ教育事務及ヒ授教

ノ事ヲ監督セシム

文部卿ハ大統領及ヒ大議院ニ對シ國中教育ノ

責ヲ保任ス其俸給一年六万フランク（大約五万

ヲ我金一圓トス以下之ニ倣ヘ

書記長ハ卿ノ不在ニ當テハ代印シ又卿在リト

雖モ小事件ハ押印スルノ權アリ其俸給二万五

千フランク

文部上議員ハ皆無給ナリ

大監察官ハ二十名アリ其俸八千フランク乃至

一万二千フランク

寮頭ノ俸ハ一年一万二千乃至一万五千フラン

ク局長ハ六千乃至八千フランク（副局長ハ四千

乃至六千フランク）他ノ官員ハ一千五百乃至三

千八百フランク

小使使部ノ輩ハ皆省内ニアリ其俸一千二百フ

ラングヲ過キズ

第二・大學區ノ事

アカデミー

教育ニ關シ全國ヲ十七區ニ分チ其區ヲ大學區

ト云フ一大學區中ニ數縣ヲ包括ス（佛國ノ大學

百〇八年三月十七日ノ決議ニ依リテ定ムル者ニシテ初ハ其數上ニ等裁判所ノ數ト等シカリシ

か一千八百四十八年ニ至リ本法ニ依リテ縣ノ數ト等
千八百五十年ニ至リ本法ニ依リテ縣ノ數ト等
區トカヲシ其後一千八百五十四年復タ増シテ十八
大學區ト爲シ其後一千八百五十四年復タ増シテ十八
大學區ト爲シ其後一千八百五十四年復タ増シテ十八
大學區ト爲シ其後一千八百五十四年復タ増シテ十八

巴勒府ノ大學區

巴勒府ノ大學區ハ最モ重立タルモノニテ九縣
ヲ聯合シ大中小ノ學悉ク備ハラサル者無シ他
ノ大學區ハ巴勒府ノ大學區ノ如ク未タ全備セ
ス大學ノ授教ノ如キハ殊ニ其全ヲ得ス

巴勒府ノ大學區廳ハソルボンスニ在リ一千二
百五十二年ロベルソルボン氏ノ創建セシ處ニ

シテ一千六百二十九年カルヂナルリシユ
氏ノ再營シタル者ナリ其地ニリシユ
墳墓アリ

巴勒府大學區ノ長ハ文部卿之ヲ魚帶セリ但シ
事務多キヲ以テ副長ヲ置キ之ヲ大學副長官ト
云フ

政府ノ諸官員中ヨリ大抵三十人ヲ選ミ大學議
會ト名ケ大學副長官ヲ助ケシム

大學副長官ノ下ニ大學區監察官八人書記一人
會計等ノ事務八人廳掌一人小使三人アリ

大學區廳ハ日曜日及ヒ祭日ヲ除クノ外午前十時ヨリ午後四時迄ヲ事務ノ時間トス
大學區監察官ノ職掌ハ官費生徒ノ尚ホ補助金ヲ願フ者ヲ吟味シ「官立中」
等ノ授教并ニ諸器械ヲ檢査ス
他ノ八縣セノ外又縣云ノ首府ニ各一人宛ノ大學區監察官アリテ大學副長官ニ代リ事務ヲ檢ス
各縣共ニ監察ノ「コ」一人宛アリ
他縣ニアル監察官モ巴勒府ノ監察官ト其職掌同様ナリ但シ縣令ニ附属シ小學ノ事務ヲ監ス

各縣ニ縣會アリ縣令其議長トナリ中小學ノ事務ヲ集議ス此議負皆無給ナリ
文部ノ官負トナルニハ其官ニ從テ各規則アリ
巴勒府ニアル大學副長官ノ俸ハ一万八千フラン
シ他ノ大學長官ハ其等級ニ從テ一万乃至一万五千フランナリ
巴勒府ノ大學區監察官ノ俸ハ七千五百フラン
書記官モ七千五百フラン「コ」ハ一千八百乃至三千フラン
廳掌ハ一千三百フラン
小使ハ九百五十フラン
但シ廳掌小使ノ兩吏

ハ居宅并ニ薪炭等ヲ資給ス

大學議員ハ皆無給ナリ

縣ノ監察官ノ給料ハ四千五百乃至五千五百フラン
但シ旅費ハ大抵七百五十或ハ一千フラン
ニ至ル監察ノヨリハ一千四百乃至一千
八百フラン但シ縣ヨリ大抵四百フランノ
補助金ヲ與フ

小學

小學ニ三種アリ即チ尤ノ如シ

第一 幼稚學校

第二 小學校

第三 上等小學校

第一 幼稚學校ノ生徒ハ男女混合シ齡三年ヨ
リ六年迄ノ小兒ナリ其科目ハ素讀、習字、神史初
歩等ナリ學校長及ヒ副學校長ニ教育ヲ任シ下
婢一人ヲ置キ諸器械ヲ取扱ハシム學校長ニセ
百乃至一千二百フラン副學校長ニ五百乃至
一千フラン下婢ニ四百フランヲ給ス
第二 小學校ノ生徒ハ男女ヲ區別ス人口四百
以下ノ區ニ於テハ願ニ因テ男女合校ヲ許ス生

徒ノ齡六年ヨリ十三年ニ至ル

小學校ノ科目ハ大略素讀、習字、文典、算術、佛國史、佛國地理、神史、罪畫、唱歌等ナリ

授業時間ハ午前八時ヨリ十一時迄午後一時ヨリ四時迄ナリ日曜日、木曜日、祭日及ヒ夏日一月間ヲ休暇トス

教官一人受持ノ生員ハ大差アリ大抵三十名乃至百二十名トス

小學校ノ授教ハ男教官或ハ女教官ナリ大抵皆免狀ヲ所持セリ其給料ハ學力等ニ因テ大ニ差

等アリ生徒ノ謝金及ヒ區ノ諸給料ヲ合セテ大抵一千フランクヲ下ラス女教官ハ七百ヨリ一千八百フランクニ至ル

生徒ノ謝金ハ一月一フランク二十五文乃至二フランク五十文ナリ

生徒甚多キ學校ニハ助教一人或ハ數人アリ助教ノ給料ハ一千二百フランクヲ過キス
小學ノ業ヲ卒ル生徒ハ試業ノ上卒業證書ヲ與フ

第三 上等小學校ハ尋常小學校ヨリ一層科目

ヲ進メ授教スルモノニレテ算計法、物理、化學ノ
大意、植物學、大意、外國獨乙英伊太利等語ヲ加フ此校ニ入
學スル者ハ皆商賈或ハ製造等ニ目的ヲ定ムル
者ナリ入校ハ齡十年或ハ十二年ニレテ退校ハ
齡十五年或ハ十七年ナリ
此學校ハ學校長一人監督數人ト各科ニ各教官
アリ

學校長ノ給ハ大抵四千フランク監督ハ一千二
百乃至三千フランク教官ハ其授教ノ時間ニ因
テ差アリト雖モ大抵二千乃至三千五百フラン

クナリ

小學ニ男校、女校、男女校アリ又之ヲ公私ニ區別
ス

公學校ハ縣令、文部省、司法官等ノ管轄ニ屬セリ
私學校ハ願ノ上ニテ設立シ公學校ノ如ク監察
ヲ受ク

教官ハ俗ト宗旨トノ二種ニ分ツ

開校免狀ハ試考ノ上ニテ渡スヲ法トス

宗旨ニ屬スル教官ハ「レットル、ドベヂア」ンス宗頭社
免狀ノ與ノ類ヲ以テ學力ノ證書ニ代用スル事アリ

リ
教官ハ大抵師範學校ヨリ出ル者ナリ此校ニ二
種アリ一ヲエコール、ノルマルト云ヒ一ヲグ
ルノルマルル共ニ師範ト云フ
各縣ノ首府ニ大抵小學師範學校一所アリ属ス
女ノ師範學校ハ未タ盡ク備ラスト雖モ此兩校
ハ必ス官ト縣ト合カレテ設ク
師範學校ノ生徒ハ試業ノ上ニテ入校ヲ許ス年限
ハ三年ナリ授教ノ科目ハ教官試考ノ目錄ニ後
フ

學校長一人教官數人ニテ此學校ヲ管ス
師範學校ノ側ニ尋常ノ小學校ヲ設ケ生徒ノ授
教ヲ習熟セシム
師範學校ノ生徒ハ其業ノ進ム者或ハ貧キ者ニ
費ヲ與フ但シ此學校一人ノ給費ハ大抵四百或
ハ五百フランクナリ而レテ半給費四分一給費
全給費等ノ別アリ
師範學校ノ學校長ハ其俸二千四百乃至三千六
百フランク教官ハ一千二百乃至二千フランク
皆校内ニ於テ居所ヲ與ヘ食料ヲ給ス

如ノ師範學校ハ大抵前條ト同様ナリ但シ其官
負ノ給料少キノミ

凡師範學校ハ皆縣費ヲ以テ設立スルモノナリ
クール、プラチック、デ、サール、グレン」ハ幼稚師範學
校ナリ

學校監察ノ事

小學ノ監察ハ小學監察官ニ委ス此上ニ大學區監
察官アリテ取締ヲ為ス

各郡ニ小學監察官一人アリ其定則給料ハ二千
四百乃至三千フランク旅費ハ六百乃至九百フ

ランク縣ヨリ與ラル補助金ハ四百フランクナ

右監察官ハ里正寺僧ノ外各地方ニ於テ重立タ
ル人物ヲ選ミ學校ヲ監督セシム之ヲ「カントン」
代理ト云フ其職ハ無給ナリ

成人學校ノ事

クールダニエルト

此學校ハ通常夜間教フル所ニシテ或ハ小學ノ
教ヲ受ケスメ成長セル者或ハ晝間小學校ニ出
ル生徒ノ尚ホ勉勵スル者等ノ為ニ設ケ素讀、習
字、文典、算術、圖畫、音樂、等ヲ教フ授教ハ大抵二時

間ナリ生徒ノ齡ハ十四五年ヨリ四十年ニ至ル
此學校ノ授教行届キ有功ノ者ニハ必金錢書籍、
金銀ノ賞牌ノ類ヲ以テ之ヲ賞ス

書庫ノ事

大抵各區ノ小學校内ニ書庫一所ノ設アリ書籍
ハ皆教育ニ要用ナルモノニテ風俗ニ害アル書
類ヲ除ケリ何人ニテモ願ニ從テ右書籍ヲ貸ス
モノナリ

小學ニ入ル生徒ハ通常貧民及ヒ家産中等ノ子
女ナリ上等人民ノ子女ハ大抵父母自ラ教
育シ或ハ師ヲ雇ヒ教育スルト云フ

小學ノ教ヲヲブリガトアル誰ニテモ此教ヲ
ト義及ヒガラチイ「貧富ヲ論ゼズ小學ノ義トスル
ノ議論アリ追テ大議院ニ於テ論定スト云フ

中學

中學校ニ三種アリ即左ノ如シ

第一 リセー

第二 區ノコレージュ

第三 私立中學校

中學ノ教科ハ尋常小學ノ科目ニ性理學、歴史、地
理、數學、物理、博物、化學、英語、獨乙語、其他ノ外國語、

及、羅旬語、希臘語等ヲ加フ

リセー

リセーニハ寄宿生徒并ニ外来生徒アリ學校長
ヲプロポジバールト云フ此學校ニ關ル事務ハ盡
ク之ニ任ス

プロポジバール學校ノ下ニ二官アリ一ヲサンス
ールト云フ生徒并ニ學問上ノ監督ヲ任シ一ヲ
エーノームト云フ諸器械及會計等ノ事ヲ司ル
サンスールノ下ニエールグエイアン、ジェ子ラル監督
及ヒメーートルレペチトールアリエールグエイアン、

ジェ子ラルハ生徒ヲ區分シ受持ヲ定メ一般ニ之

ヲ監督ス我學校監メーートルレペチトール校級

長ノハ生徒ト寢食ヲ共ニシ休暇外出モ此官負
必ス之ト共ニシ生徒ノ動作ヲ監ス

エーコノームハ諸器械、出納、生徒ノ食物等ヲ司ル

此官ノ下ニコミー、デコノマー及ヒコミー、ラー、

ゼクリチールアリテエーコノームヲ助ク

授業ハ諸種ノ教官ニ任ス教官ハ或ハドクトー

ル博或ハアグレジェーリセーノ教官ヲ募リ試

或ハリサンレエー士等ニシテ文科、文典科、歴史

科、理學科等各別ニ教頭ヲ設ク宗教ハ其宗ノ教師ニ任ス此教師ヲヲノモニエト云フ生徒ハ其年齡及ヒ學力ニ從ヒ第八級第七級第六級第五級第四級第三級第二級第一級ト稱スルモノハレトリック及ノ諸級ニ分ツ各級ノ受業年限ハ皆一年トス一部ノ生徒ハ教頭一人ニ任ス三十名或ハ三十五名ニ過ギズ入校ノ齡ハ大抵八年ニシテ二十年迄在學ス生徒第四級ニ上ル時ハ各其方向ヲ定メ或ハ文科ヲ研究シ或ハ理科ヲ研究セシム但レ甲ノ科

ニ入ルト雖モ全ク乙ノ科ヲ廢スルニアラス受業ノ時間ハ通常一日中八時間ナリ但シ其内四時間ハ教場四時間ハ下讀トス

日曜日及ヒ木曜日ハ午前素讀ヲナシ午後外出ス

一年中十ヶ月間授教シ他ノ二ヶ月ヲ休暇トス毎年八月闘藝會ト稱スル大會ヲ設ケ文部卿之ニ出席シ巴勒府并ニヴエルサイユニアルリセリノ生徒第四級以上ノ者ノ學業ヲ試ミ賞典ヲ與

各大學區ニ於テモ管内各リセーノ生徒ヲ集メ
闘藝會ヲナシ賞典ヲ與フ

生徒卒業セル時ハ試考ヲ受ケバカローレア
得業士ノ免狀ヲ得ルナリ

リセーノ生徒人負ハ入寮ト外来トヲ合シテ大
抵二百名ヨリ一千四百名ニ至ル

リセー寄宿生ハ月俸ト學資トヲ合セテ一年ノ
高六百乃至一千四百フランシク外来生ハ百五十乃
至三百五十フランクナリ

プロウキスール學校ノ給料 四千乃至九千フランク

サンスールノ給料 三千乃至七千フランク

エコノームノ給料 二千乃至五千フランク

ジュルグイアン、ジュラル監督ノ給料

一千二百乃至二千五百フラン

シク但別ニ住所ト食料トヲ與フ

メートル、レペチュールノ給料

七百乃至一千五百フランシ

但シ同上

カミードコノマーノ給料 一千二百乃至二千フランシ

但シ同上

小使ノ給料

三百乃至五百フラン^ク但^レ同上

教官ノ給料ハ其等級及授業時間ニ因テ差アリ
大抵二千乃至七千五百フラン^ク

「^フ」^ーモニエ^ーノ給料ハ一千八百乃至三千五百
フラン^ク但^レ住所ヲ與フ

「^リセ^ー」ノ諸費ハ生徒ノ學資及官ノ額金ヲ以テ
之ヲ弁ス

專門^{スベレアル}中學校ハ商賈製造等ニ目的ヲ定ル生徒ヲ
授教ス此學校ノ科目ハ尋常中學校ノ羅^ロ甸^ウ語^ヒ希

臘^ラ語等ヲ除クモノナリ
專門中學校ノ師範學校ハ別ニアリ

區ノ「コレー^ジ」ノ事

此學校ハ大抵「^リセ^ー」ト同様ナレトモ教科少ク
下^レリ

此學校ノ長「^フ」ランシペ^ルト云學校ノ諸費ハ
生徒ノ謝金ヲ以テ不足スル時ハ其市街及官ノ
補助ヲ仰ク

此學校寄宿生ノ月俸學資ハ一ケ年九百五十フ
ラン^クヲ過キズ外来生ハ六十乃至百五十フ
ラン^ク

教官ノ給料ハ三千フラン^クヲ過キズ「^リセ^ー」ノ

教官ニ比スレバ其學力大ニ劣レリ

私立中學校ノ事

此學校ハ官或ハ市街等ニ属セザルノミニテ教科ハ區ノ「カレッジ」ニ同シ

寄宿料ハ六百或ハ一千五百或ハ一千八百「グラ」ニ至ル

私立中學校ヲ開クニハ必ス「バシリエ」得業ノ免狀ヲ要ス

巴勒府大學區ニ私立中學校二百四十二所ニシテ其生徒二万二千六百名アリ

女子中學校アリ皆官ニ属セス

大學

大學校ハ「リゼ」ノ如ク寄宿所ヲ設ケス外来生ノミナリ而レテ生徒進否ノ責ハ教官ニアラス
法學及醫學ノ生徒ハ必ス先ツ「バカローレア」
法學ニハ文科ノ「バカローレア」ノ免狀ヲ得タ
醫學ニハ理科ノ「バカローレア」ノ免狀ヲ得タル後ニ入校ス

諸生徒皆三ヶ月毎ニ「ドロアル」姓名記載ヲ納メ

試業ヲ經テ諸種ノ免狀ヲ得ルナリ

大學ノ授教ハ皆謝金ヲ取ラス

一科ノ講義ハ一時間或ハ一時半ナリ

大學授業ハ一年間十ヶ月ニシテ一周間ニ一科ノ講義二度トス

大學ニ於テ試業ヲ為シタル學位ノ等級ハバシ
リエー^ル得業^ルリサンシエー^ル學^ルアグレ^ルシエー^ル及ドク
トール^ル博士ナリ醫學ニ於テハドク^ルトール^ルアグレ
シエー^ルラフ^ルシエー^ルド^ルサン^ルテ^ルサイ^ルシ^ルアム^ル産^ル藥^ル肆^ルニ
ハ一等及二等藥肆又ヘルボリス^ルト^ル草^ル根^ル木^ル皮^ル等
アリ
試業ハ教官ノ立合ニテ行フ

ドク^ルトール^ルノ級ヲ得ルニハ策問ニ答フル論文
ヲ書キ教官列坐ノ席ニテ教官ノ問ニ答ヘ自己
ノ議論ヲ弁解ス議論ノ甲乙ハ黒白点ヲ以テ區
別ス

法學科ノリ^ルサンス^ル學士^ルノ級ヲ得ルニモ亦論文
ヲ要ス其他諸等級ノ試考ニ於テモ甲乙ノ判断
ハ同様ナリ

諸種ノ免狀ハ皆文部卿ヨリ渡ス
大學ヲ卒業スルテ^ルト云其教官ハ皆ドク^ルトール^ルノ
學者ナリ

大學ノ種類尤ノ如シ

第一、神學校

第二 法學校

第三 醫學校

第四 理學校

第五 文學校

第六 上等製藥學校

第七 醫學及製藥ノ豫備學校

右各學校ノ學校長ヲ「ドアイヤン」ト云教頭ハ教官ノ
中ヨリ勅ム「ドアイヤン」ノ俸ハ七千五百「フラン」クニ

シテ外ニ「ユ」ン「チュ」ユル豫メ算定スベキ姓名ヲ記載

料等ノ割アリ教頭モ大抵同シ

「エ」ワン「チュ」ユルハ生徒姓名記載料等ノ何分ノ幾

分ト定メ諸教官ニ分配ス故ニ此金ハ學校ノ大

小ニ因テ大ニ差アリ巴勒府法學校ニ於テハ一

人ノ割前二千乃至四千「フラン」クナリ

第一 神學校ハ巴勒府ノルホンタニアリカト特

力教及其歴史ヲ講ス

此學校ニ教官九人アリ其給料四千或ハ六千「フ

ラン」ク書記一人アリ「アン」スクリ「プロ」シオン生徒姓名

及其記載及諸器械用度等ヲ司ル其給三千
料等ヲ云及「諸器械用度等ヲ司ル其給三千
ランク」アッパリト「ル應接ヲ司ル次講一人其給一
千」フランク小使一人其給九百フランク
第二 法學校ニ於テハ人民ノ權利國法訴訟取
扱、經濟學等ヲ講ス

大學區ノ管轄ニ属セザル學校

第一 上等師範學校一所、巴勒府ニアリテ中學
及大學ノ教官ヲ陶冶スル所ナリ
此學校ニ入門スルニハ「バシリエ」^{得業ノ免狀}
ヲ要ス研究二年或ハ三年ニシテ「リサン」^ス或ハ

「アグレガシ」^ン「アグレ」^レ「シ」^ニ同「シ」^ニノ級ヲ得ルナリ

教官ハ皆精選ノ學者ニシテ教科ヲ文ト藝トノ
二門ニ分ツ

生徒ハ尽ク寄宿生ニシテ其數大抵六十名ナリ

第二 エコートル、プラチック、デ、ホート、エチュード^{高等}

實地此學校ハ既ニ得業セル學者ノ猶一層其業
ヲ研究セント欲スル者ノ為ニ設ケ文ト藝トノ

二科ニ分ツモノナリ

第三 「グー」ル、プブリック^{此學校ハ文藝兩科ノ講}
席ヲ設ケ人民隨意ニ聽講ヲ許スモノナリ

第四 コレージュ、ド、フランス佛朗西學校ノ義、此學校モ
文ト藝トノ二科ニ分ツ他ノ大學ニ比スレハ授
教ノ科甚高尚ナリ亞細亞各國ノ語學所ハ此學
校ニ附属セリ

第五 アンスチチュ、ド、フランススコレハ國中
モ博學ナル學者ヲ集メ諸學術文藝ヲ研究スル
所ナリ為サス各局ニ分チ之ヲアカデミート云
フ即チ

其一 アカデミー、フランスズト云フ重モニ
佛語ヲ研究シ字書ヲ編輯ス

其二 アカデミー、デ、レ、ア、ン、スト云フ諸學術ヲ
研究ス

其三 アカデミー、デ、ザ、ン、ス、クリ、プ、ン、エ、ベ、ー
ル、レットルトト云フ詩文章古碑ノ銘歴史及古
語等ヲ研究シ羅旬、希臘等ノ書ヲ譯ス

其四 アカデミー、デ、ボ、ー、ザ、ールルトト云フ音曲、戲
場、畫學、彫刻等ノ一ヲ研究ス

其五 アカデミー、デ、シ、ア、ン、ス、モ、ラ、ール、エ、ボ、リ
チ、ク、ト云フ性理、人道、政體等ヲ研究ス
右 ア、ン、シ、ス、チ、エ、ノ、外ニ醫學ノアカデミーアリ

以上アカデミー各社中ノ人員四十名或ハ五
六十名皆投票ニテ選舉ス此人員ノ外社中數
人又外國人ノ入社スル者數人アリ互ニ學科
研究ニ付キ發明等ノ事ヲ相通交ス各アカデ
ミーニ數多ノ寄附金アリテ年々大會ヲ為シ
或ハ詩文或ハ學術、音曲、畫學等ニ關スル發明
或ハ有益ノ著書等ヲ判斷シ上等ノ者ニ賞金
ヲ與フアカデミー、フランスニテハ佛語
ヲ吟味シ字典ヲ出版ス外國語等ノ佛語トナ
スベキモノハ此局ニテ論定シ字書中ニ加フ

故ニ此局ハ佛國中文法語法ノ主宰ナリ局々
各自ニ會シテ其局關係ノ科ヲ議論スルアリ
又五局大集シテ議論スルアリ別ニ詳ナル各
局ノ規則アリ

第六 天文臺及ヒロロ、デ、ロンジチュードコレ
ハ經緯度ヲ調ヘ各國ノ形態、貨幣、尺度、量衡等ニ
付キ年々ノ出版アル所ナリ又コンセルヴァトア
ール、デ、ザール、ユ、マチエールコレハ蒸氣器械、農具、
牧畜機具、諸穀種、造船、築造、造家、鑄造、時計、望遠鏡、
馬真ノ類都テ器械ニ屬スルモノ尽ク雛形ヲ集

メ講義ヲ為ス所ナリ

書庫數ヶ所、古言學校一所、博物園等アリテ學者

ノ研究ヲ助ク

希臘學校^{アリ}希臘^ニジ^ラメ^デシ^ーア^リ羅馬^ニ等ハ上等

師範學校^エコ^ール[、]デ[、]ホ^ーザ^ール^ニ美術學校ノ義

學等ノ^コン^セル^グア^トリ^ール[、]ド[、]ミ^ニツ^ク校^音學等

ニテ學ビタル少年ノ實地研究ヲ助クルモノナ

リ

賞譽

教官^男幼稚學校長^女等ノ教育ニ勉勵シテ功ア

ル者ニハ賞ヲ與フ則尤ノ類ノ如シ

第一四百乃至一千^フラ^ンク

第二^マン^シン[、]ヲ^ノラ^ーブル^ニ狀^褒賞

第三銅ノ賞牌^{貨幣}ノ形^ニシ^テ其^功

第四銀ノ賞牌

教育事務ニ有功ノ諸官負諸教官等亦然リ

第一^ハル^ム、^ド、^ミシ^エ、^ーダ^カデ^ミ、^ニ榮^譽ヲ^尊稱

ナ^リ以^下
皆^同

第二^ハル^ム、^ド、^ミシ^エ、^ード[、]ラ^ンス^トリ^ュク^ショ^ン

プ^エバ^リツ^ク

第三^カラード、ド、ラ、レ、ジ、ラ、ン、ド、ノール

各官省ニ属セル學校

第一文部省

セミ子ール^ル寺院學校ノ義ニシテ宗

第二陸軍省

諸藝學校^{兵事ニ属スル築造器}

兵學校

騎兵學校

ポリタ子ール^{ミリテール}兵學校一種

エ^カールミリテール^{ド、サンテ}軍醫學校

第三海軍省

海軍學校^{此學校ハ街ヲハ講レハスト}港ノ船中ニアリ

云ト

第四工部省

橋梁堤防學校

礦山學校

第五大藏省

山林學校

第六農商部省

カンセルヴァトール^{デ、ザール}エ、メ、テ、エ、^前解

ニア

製造學校

農業學校 三所

獸醫學校 三所

藝術學校 三所

ヘルテール氏ノ說拔萃

エコール・プレパトアール・デ・レアンス、エ・レツト

ル豫備學校文科此學校ハ大學ノ設ケ無キ市街ニア

リテ教官ハリセーノ教官之ヲ兼ヌ學科ハ尋常

ノ中學ヨリ一層高尚ナリ

エキダランス・デ・グラード學位ノ等級ヲ佛國ニ

於テハ醫師、教師、法律家、化學、物理學等ノ業ヲ為

スニハ各其學位ノ等級ヲ要ス故ニ外國人ニシ

テ佛國ニ於テ右様ノ業ヲ為ント欲スル時ハ各

自國ニ於テ得タル免狀ヲ佛國ノ免狀ニ比シテ

免許スルナリ

博物館ハ萬物ヲ集メ諸學術ノ實際ノ教ノル為

ニ設ク講席十六所ニテ其教官ノ俸ハ七千五百

フランクナリ聴講ハ無資ナリ

ロロ、デ、ロンドン、ト見解前ニハ時候、各國経緯、

氛圍氣等ノ事ヲ調ル為ニ設ク幾何學家二人星
學家四人航海家二人地理家一人器械家三人ヨ
リ成ル皆君主ノ親ヲ命スルモノナリ

本官ノ俸ハ五千フランク助官ハ三千乃至四千
フランク

天文臺ハ都テ天體ニ關ル事ヲ研究ス長官一人
其俸一万五千フランク星學家數人一人ノ俸六
千或ハ八千フランク助官其俸五千五百或ハ三
千五百フランク見習數人アリ一人ノ俸二千フ
ランク

東洋語學校中ニハ日本語亞喇比亞語波斯語亞
爾美尼亞語當時ノ希臘語印度語支那語馬來語
及瓜哇語土耳其語等ヲ教フ
聴講ハ皆無資ニテ教官ハ五千フランクノ給ナ
リ

エコール・デ・ギルトハ古言古昔ノ寫本古昔ノ諸
術等ヲ教フル為ニ設ク此學校ハ教員ハ文部卿
ヨリ命シ其俸四千或ハ五千フランクナリ
希臘ニアル學校ハ此國ノ往古諸術藝歴史語法
等ヲ研究セシムル為ニ設ク其生徒ハ上等師範

學校ニテ卒業シ或ハ「ドクトー」ル或ハ「アグレ」
「或ハ「リサン」シエ」等ノ級ヲ得タル者ニテ年
々三千「フラン」クヲ給シ三年間學バシメ勤學中
毎年研究スル所ノモノヲ編輯シ文部省ニ送ラ
シム學校長ハ君主親ヲ命シ一万二千「フラン」ク
ヲ給ス

學制教育憲法并ニ施行ノ規則ニ

第一 一千八百五十年三月十五日ノ法

第一篇 教育諸官ノ事

第一條 文部上議院ノ事

第一章

一文部上議院ノ編制尤ノ如シ

一文部卿議長

一社中ノ選舉セルアルセゾーク大和尚或ハ和尚四人

一僧會ノ選舉セルエグリズ、レファルメ「破宗羅

一ノ教師一人

一僧會ノ選舉セルミニストル「破宗羅

一ル「破宗羅」ノ教師一人

一社中ノ選舉セル猶太宗ノ僧一人

一參議院ノ内社中ノ選舉セル者三人

一覆審院ノ内社中ノ選舉セル者三人

一博學社ノ内大會ノ時選舉セル者三人

一諸省卿ノ合議ニ依リ大統領ヨリ命スル者

八人但シ前ノユニゾルシテ一議員大監察

或ハ上等監察官大監察ハ大中小學ヲ受持

持ツ現今ハ上等監大學長官及ヒ科學ノ教

察官ヲ廢セリト云ハ大學長官及ヒ科學ノ教

頭ヨリ選舉シ以テ常議官ト為ス

一私學校長ノ内文部卿ノ上請ニ因リテ大統領ノ命セル者三人

其後一千八百五十二年三月九日ノ決議第一章及ヒ第五章ヲ以テ此章ニ代フ

第二章

一常議官ハ年限ナシ

一常議官ハ文部卿ノ関申ニ依リ諸省卿合議シ

テ大統領ヨリ命スルニテラサレハ免官スル

一ナシ

一右八人ニハ相應ノ給料ヲ與フレ他ノ議員

ハ別ニ給料ナシ

一千八百五十二年三月ノ決議ニ依リテ此章ヲ廢ス其決議ハ常議官ヲ置カサル者ナリ

第三章

一常議官ノ外ハ文部上議員ノ年限皆六年トス

一年限満ル時ハ再任スルヲアルヘシ

第四章

一文部上議院ハ每年少クモ必ス四回開院ス

一文部卿ノ意ヲ以テ臨時集會ヲ命スルヲアリ

第五章

一文部上議院ノ論議スヘキ事件ハ法則規則局一

ノ規則布告及ヒ文部卿ヨリ下問スルケ條ナ

リ

一其他必ス論議スヘキ條件左ノ如シ

一試考、コシクノル關藝會、官學校ノ課程、私學校ノ監督及

ヒ都テ教育ニ關スル諸規則

一リセー「コレ」シ及ヒ科學校ノ設立

一私立中學校ノ扶助金及ヒ獎勵金

一官學校ニ採用スヘキ書籍ノ事并ニ私學校

所用ノ書籍中、政体、國法、修身ニ害アリテ禁

スヘキ者

一文部上議院ハ大學議會コシセイイフアカデミツノ第十四章ノ規則ニ

從ノテ決定セル事ノ可否ヲ正ス

一文部上議院ハ毎年教育進否ノ景況、學校内ノ

弊害及ヒ其弊害ヲ除クノ方策ヲ書シテ文部

卿ニ差出スヘシ

第六章

一 常議官ハ官學校ノ取締會計并ニ指揮ニ関ス
ル个條ノ下調ヲ為スベシ

一 此議官ハ其他文部卿ノ顧問アル毎ニ諸教員
ノ給料并ニ進級ニ関スル諸件ヲ條答スヘシ
一 常議官ハ毎年官學校教育ノ景況ヲ書レテ文
部上議院ニ差出スヘシ

第二條

大學議會ノ事
フンセイイユアカデミツク

第七章

一 以来一縣ヲ一大學區ト定ム

第八章

一 各大學區ハ大學長官之ヲ指揮ス又文部卿ノ
意ヲ以テ監察官一名或ハ數名ト大學議會ト
ラシテ之ヲ輔シムルヲアリ

第九章

一 大學長官ハ必スモ官學校ノ教員ヨリ選舉
スヘキ者ニアラス

一 大學長官ニ選舉スヘキ人ハ必スリサシエ
學ノ称号アル者或ハ十年ノ間大學區監察
士

エンスベクトールカデミ

官⁷プロダ⁸バール⁹ル¹⁰リセ¹¹「ザンスール¹²リセ¹³」公
私學校ノ長又ハ教頭ヲ勤メシ者タルヘシ

第十章

一大學議會ノ編制左ノ如シ

一大學長官議長

一大學區監察官或ハ小學監察官ノ内文部卿

ノ選ヘル者一人

一縣令或ハ其代理一人

一和尚或ハ其代理一人

一和尚ノ選ヘル僧一人

一波羅特両派¹⁴エツシリオン、レフルグメス¹⁵及ヒ¹⁶ゴン

ノ公然行ハル、縣ニ於テハ両派ノ教師ノ

内文部卿ノ選ヘル者一人

一猶太宗ノ公然行ハル、縣ニ於テハ其代理

一人

一上等裁判所ノ設アル市街ニ於テハ¹⁷檢事長

一人其他¹⁸下等裁判所ノ設アル市街ニ於テ

ハ檢事一人

一上等裁判役一人但シ上等裁判所ノ設ナケ

レハ下等裁判役一人何レモ其局ニ於テ選

舉ス

一縣會其各縣ニ議會アリテヨリ選舉セル者四人但シ少クトモ其内二人ハ必ス縣會ノ人負中ヨリ出ス

一其他諸科學ノ長モ大學議會ニ列レテ各其學科ノ事ヲ議スルノ權アリ

一議員ノ出席其半數ヨリ一人以上多カラザレハ議事ヲ決スヘカラス

第十一章

一セース縣ニ巴府及ノ大學議會ハ其編制九ノ

如シ

一大學長官議長

一縣令

一巴府ノ大和尚或ハ其代理一人

一大和尚ノ選ヘル僧三人

一僧會ヨリ選ヘルユクリスレフォルメノ教師一人

一僧會ヨリ選ヘルユンフツシオンドーグス

ブールノ教師一人

一僧會ヨリ選ヘル猶太宗ノ僧一人

一 文部卿ノ選ヘル大學區監察官三人

一 文部卿ノ選ヘル小學監察官一人

一 檢事長一人或ハ檢事局ニテ選ヘル局内ノ

モノ一人

一 其局ニテ選ヘル上等裁判役一人

一 其局ニテ選ヘル下等裁判役一人

一 巴勒府區會ノ内四人及ヒセーヌ縣會ノ内

二人但シ縣會之ヲ撰擧ス

一 セーヌ縣廳ノ書記長一人

一 其他諸科學ノ長ヒ大學議會ニ列シテ各其學

科ノ事ヲ議スルノ權アリ

第十二章

一 大學議員ノ投票ニテ選ニ當レル者ハ年限三年トス但年限満ル時ハ再任スルヲアリ

第十三章

一 大學區廳ノ地所家屋ハ其縣ヨリ供スヘシ

第十四章

一 大學議會ノ議スヘキ條件尤ノ如シ

一 縣内諸學校ノ景況

一 公學校ノ指揮諸規則及ヒ教則ノ改正

一リセー「コレ」ジ及ヒ小學師範學校ノ會計
一小學校ニ與フヘキ扶助金及ヒ獎勵金
一又タ文部卿或ハ大學長官ノ命ヲ受ケテ官立
大中學校教員ニ關スル規律ノ下調ヲ為ス
一此議會ハ學者ノ等級授與、聞藝會、私學開校及
ヒ教官ノ許否ノ訟并ニ官立中學教員ノ罪狀、
私學教官ノ授教禁止、私學校長或ハ教頭ノ責
罰及ヒ公私小學教官ノ規律ニ付キ決議ヲ申
渡スヘシ但シ此決議ヲ受クル者ハ文部上議
院ニ出訴スルヲ許ス

第十五章

一リセー「コレ」ジ及ヒ小學師範學校内ノ諸規
則及ヒ官立小學校ノ規則ハ此議會ノ議ヲ取
ルヲ要ス
一此議會ハ區會ノ説トカントン代理ノ説トヲ
取テ生徒謝金ノ高ヲ定ム
一區ノ時宜ニ依リ暫時男女ヲ同校ニ入學セシ
メ又ハ諸宗ノ小兒暫時同校入學スルノ免許
ヲ処決スルハ此議會ノ職務ナリ
一小學教官ノ篤實ニシテ勉勵スル者ニ賞譽ヲ

與フヘキ時ハ大學議會ヨリ其旨ヲ大學長官ニ申出ツ

一大學長官ハ之ヲ文部卿ニ上請シテ賞ヲ與フ

第十六章

一大學議會ハ毎年其縣内ノ教育進否ノ景況ヲ書シテ文部卿ト縣會トニ送ル

一大學議會ノ報告ハ大學長官ヨリ文部卿ニ呈シ文部卿之ヲ文部上議院ニ渡ス

第三條

學校ノ事并ニ監察ノ事

エンスベクレガン

其 一 學校ノ事

第十七章

一國法ニ於テ中小兩學校共ニ二種アリ於テ國ハ大學ノ教ハ皆官學校ニ於テセリ然レハ一千八百七十二年私立ノ法律學校ヲ開ケリ尤スレハ更ニ官ノ免許アリト見ユ

第一 アルミユン區費、縣費或ハ公費ヲ以テ設立シ且之ヲ維持スル者ハ皆公學校ト謂フ

第二 一人ノ金ニ依リ或ハ社ヲ結ビテ起ス者ハ皆之ヲ私學校ト謂フ

其 二 監察ノ事

第十八章

一公私學校ヲ監察スル官負尤ノ如シ

第一 大監督 大監察 本省等ニ居テ 及ヒ上等監察官

第二 大學長官及ヒ大學區監察官

第三 小學監察官

第四 カントン代理里心 巴勒府ニアリス

長ナリ巴勒府ノアロシチスマンハ其府ノ
二十分ノ一ナリ其他ニ於テハコハミ
長ナリコハミ及ヒキレノ加特カ宗ハ
猶我小區ノ如シハ及ヒキレノ加特カ宗ハ

ストールノ波羅特宗或ハ猶太宗ノ代理但シ

小學ニ關スル事ヲ監察ス

一諸宗ノ教師ハ各宗ノ專門學校ト其宗門ヲ交

ヘ教フル學校トヲ監察スルノミ

一大學長官ハ事故アレハ假リニ大學議負一名

ヲ代理ト為シテ監察セシムルヲアリ

第十九章

一大學區監察官ハ前ノ監察官科學ノ教頭リセ

「ノプロウキバル學校リセ」ノサンスール

監督 教頭、科學及ヒリセ「ノアグレ」及ヒ小學

監察官ノ中ヨリ文部卿之ヲ選舉ス但シ何レ

モ「リサシユ」ノ級ニ至レル者ヲ要ス若シ

其級ニ至ラサルモノハ十ヶ年間上ニ舉クル
所ノ職ニアタシレモノヲ要ス

一大監察及ヒ上等監察官モ亦文部卿之ヲ選舉
ス此官ハ前節ニ舉クル所ノ人負中又ハ前ノ
大監察、小學上等監察官、大學長官、大學區監察
官或ハ博學社中ヨリ撰舉ス

一文部卿ハ文部上議院ノ説ヲ聽カスレテ直ニ
大監察ヲ命スルヲアルヘカラス

第二十章

一小學ヲ監察スル事ハ特ニ上等監察官二人ニ

委ス

一其他各郡ニ小學監察官ヲ置ク此官ハ大學議
會ノ説ヲ聽キテ文部卿ノ命スル者ナリ

一但シ土地ト人口ト都合ニ因リ大學議會ノ
説ヲ聽キ小學監察官一名ヲシテ二郡ヲ監察
セシムルヲアリ

一小學監察官ノ等級、巡回旅費、位階昇進并ニ給
料ハ別ニ規則アリ

第二十一章

一公學校ヲ監察スルニハ文部上議院ニ於テ決

定セル規則ニ從フ

一私學校ニ於テハ生徒ノ行狀健否并ニ衛生法ヲ監察ス

一私學校ノ授教科目ニ就テハ只其政體國法及修身ニ害アルヤ否ヲ檢スルノミ

第二十二章

一前章ニ舉クル官ノ監督ヲ拒ム所ノ中小學校長ハ其郡ノ懲治裁判所ニ呼出レ一百乃至一千フランクノ罰金ヲ命ス

一再ヒ此罪ヲ犯ス者ハ五百乃至三千フランク

ノ罰金ヲ命ス一ケ年中ニ再犯スル時ハ第二回ノ時閉校セシム

一右監督ヲ否ム趣ハ監察官調書ヲ以テ之ヲ證スレハ終始此調書ヲ以テ正トス

第二篇 小學ノ事

第一條 通則

第二十三章

一小學ノ科目尤ノ如シ

一修身并ニ奉教ノ道

一素讀

一習字

一倂國語學階梯

一算數及ヒ度量考

一右ノ外ニ尤ノ科目ヲ増加スルコトアリ

一實用算術

一歴史并ニ地理ノ大意

一理學并ニ博物學ノ大意日用ノ事ニ関スル部

一農學、工藝學并ニ衛生學ノ大意

一陸地測量、水準法、罫畫

一唱歌及ヒ体術

第二十四章

一貧民ニシテ學資ヲ弁スルコト能ハサル者ノ子弟ハ謝ヲ取ラスシテ教育スヘシ

第二條 教官ノ事

其一 公私小學校教官條例

第二十五章

一學力ノ證書ヲ有スル佛人齡滿二十一年ノ者ハ倂國內何レノ地ニ於テモ公私小學校教官ノ職ヲ奉シ得ヘシ

一 第四十七章ニ記スル「スタージ」ノ證書幾年間
某學校
ニ於テ助教等ノ職ヲ勤メ其才藝ノ「バシリ」
ヨク教官ニ堪フル旨ヲ證スル紙面
得業ノ免狀、政府ノ專門校見ユニ入學免許ノ證
書又ハ波羅特宗教師ノ稱号禁罰ヲ受ケ又ハ
ハ此例ニアレハ以テ學力ノ證書ニ代用スル
ヲアリ

第二十六章

一 不廉直或ハ不行狀ニテ重罪又ハ輕罪ノ罰ヲ
受ケシ者或ハ刑法第四十二章ニ記載セル如
ク裁判ニ因リテ親族ノ権ノ一部或ハ全部ヲ

奪ハレシ者并ニ本法第三十章及ヒ第三十三
章ノ條例ニ依リ免官サレシ者ハ皆公私學校
ノ長タルヲ得ス亦教官ニ任スルヲ得ス

其二 私學教官條例

第二十七章

一 私學校ヲ開カント欲スル者ハ必ス先ツ其趣
意開校ノ地所當人故ノ住所及ヒ十ヶ年以來
ノ職業ヲ明細ニ認メ開校セント欲スル區ノ
里正ニ願出ツヘシ
一 右願書ハ里正ノ外猶又必ス當人ヨリ大學長

官検事及^ニ郡令へ指出スヘシ

一里正ハ一ヶ月ノ間右願書ノ趣意ヲ自己ノ門
前ニ揭示ス

第二十八章

一大學長官ハ自ラ搜索シ或ハ検事又ハ郡令ノ
訴ニ依リテ当人ノ行状里カラサルヲ知レハ
願書落手ノ翌月ニ到リ開校ノ故障ヲ申達ス
トアリ

一右ノ故障ハ速ニ大學議會ニ於テ其可否ヲ許
決シ更ニ控訴スル所ナカルベシ

一里正其地所家屋ヲ用ヰルトテ許サ、ル時モ
亦大學議會ニ於テ之ヲ許決ス

一一切故障ナケレハ翌月ノ末ニ到リ別ニ手數
ヲ用ヰスシテ開校スヘシ

第二十九章

一第二十五章、第二十六章及^ニ第二十七章ノ規
則ニ背キ開校セル者或ハ第二十八章ノ末節
ニ學ル定則ノ日限前ニ開校セル者ハ其地ノ
懲治裁判所ニ呼出シ五十乃至五百フランク
ノ罰金ヲ命ス

一其校ヲ閉サシム

一再此罪ヲ犯ス者ハ一百乃至一千フランクノ罰金ヲ命シ且六日乃至一月間ノ入牢ニ処ス

一開校ノ故障アル時大學議會ノ許決ヲ待タスシテ開校セル者又ハ其議ニ背キテ開校スル者モ亦一百乃至一千フランクノ罰金ヲ命シ且六日乃至一月間ノ入牢ニ処ス

一教官ノ職ヲ為サズ只真ノ慈心ヲ以テ小兒數人ヲ集メ習字、素讀ヲ教フル者ハ開校セル者

ト看做サス但シ此輩モカントン代理ノ免許ヲ得ルヲ要ス

一時ニヨリテハ大學議會ヨリ其免許ヲ收回スルコトアリ

第三十章

一都テ私學教官其職務ニ付キ大過アル時或ハ行狀風儀ノ宜シカラサル時ハ大學長官或ハ檢事ノ指斥ニ依リ其縣ノ大學議會ニ呼出シ其事實ヲ糾シ或ハ譴責シ或ハ六ヶ月間以内其出勤ヲ差留メ又ハ全ク其區内ニ於テ授教

スルヲ禁スルヲアリ

一 罪ノ大ナル時ハ大學議會ヨリ終身教官ノ職ヲ禁スルヲアリ但シ此時ハ当人文部上議院ニ控訴スルヲ得ヘシ

一 右控訴ハ大學議會決議申渡ノ日ヨリ十日ノ内ニ於テスヘシ但シ大學議會ハ之ニ関セス断然其処置ヲ行フ

其三

區教官

區費ヲ以テ給ノ事
料ヲ拂フ者

第三十一章

一 區教官ハ各區ノ議會ヨリ命ス而其之ヲ選ム

ハ大學議會ニ於テ作レル教官昇進表及ヒ新ニ教官ニ任スベキ人名表ニ依リ或ハ宗旨社中ノ教育ヲ以テ自ラ任スル人ニシテ其頭ノ推舉スル者ヨリスベシ

一 加特力宗ニアラサル宗門ノ教官ハ波羅特宗ノ僧會中ヨリ選舉ス

一 區會ノ選舉其法ニ符合セサル時又ハ全ク撰舉セサル時ハ大學長官ヨリ里正ニ達シ然ルヘキ者ヲ選マシム一月ヲ經テ尚其人ヲ得サル時ハ大學議會ヨリ教官ヲ命ス

一其官ニ任スヘキ旨ハ文部卿ヨリ之ヲ達ス

第三十二章

一區教官ハ大學議會ノ許可ヲ受ケスレテ他ノ役ヲ兼帶スルヲ禁ス

一商業工藝等ノ他職ハ區教官ニ嚴禁タルヘシ

第三十三章

一大學長官ハ時宜ニ依リ一時區教官ノ出勤ヲ差留ノ且其間給料ノ全額又ハ其一部ヲ奪フ
一アリ或ハ給料ヲ奪ハスレテ只其出勤ヲ差留ハル一アリ但シ何レモ出勤ヲ差留ムル一

ハ六ヶ月以内タルヘシ又ハ之ヲ譴責スル一アリ或ハ免官ヲ命スル一アルナリ

一免官ヲ命セラレシ者ハ其区内ニ於テ公私共ニ教官ニ任スルヲ許サス

一大學議會ハ區教官ノ不法アル時細密ニ之ヲ取調タル上全國中ニ於テ其職ヲ行フ一ヲ嚴禁スル一アリ但シ此時ハ文部上議院ニ控訴スルヲ得ヘシ其控訴ハ大學議會ノ申渡ヨリ十日内ニ於テスヘシ但シ大學議會ハ断然之ヲ禁ス

一止ムヲ得サル事件アル時ハ里正假リニ區教
官ノ出勤ヲ差留ノ二日以内ニ其旨ヲ大學長
官ニ報スルヲアリ

第三十四章

一官學校ノ生徒過多ナル時ハ大學議會ノ許決
ニ依リ助教ヲ置クヘシ

一助教ハ齡十八年以上タルヘシ但シ第二十五
章ニ舉ル條例ニ拘ハルヲ要セス

一助教ハ大學長官ノ許可ヲ受ケテ其校ノ教官
之ヲ命シ又之ヲ免ス但シ第三十一章ニ舉ク

ル如キ宗旨社中ノ助教ハ其社ノ頭之ヲ命ス
亦之ヲ免スルヲアリ

一助教ノ給料ハ區會ニ於テ之ヲ定ム而其費ハ
區内ヨリ出スヘシ

第三十五章

一各縣ニ小學師範學校ヲ設ケ或ハ通常ノ小學
校内ニ師範タルヘキ生徒ヲ養ヒ以テ區教官
ノ徵募ニ應スヘシ今時ハ尋常ノ小學校内ニ
師範タルヘキ生徒ヲ置ク
トナシ
ト云

一師範學校ハ縣會ヨリ之ヲ廢スルヲアリ或ハ

大學議會ノ報告ニ依リ文部上議院ノ決ヲ取
リ文部卿命シテ之ヲ廢スルヲアリ何レモ之
ヲ廢スル時其校内ニ給費生徒アレハ絶ヘス
其月俸ヲ與フヘシ
一登校退校ノ時刻及官費ヲ命スル等總テ師範
學校ニ關スル事ハ文部上議院ニ於テ決定セ
ル規則ニ從フテ処置スヘシ

第三條 區學校ノ事

第三十六章

一各區ニ必小學校一箇或ハ數箇ヲ設立スヘシ

一都合ニ因リテハ大學議會ノ許可ヲ受ケテ近
隣ノ一區或ハ數區ト合併シテ小學一校ヲ設
立スルヲアリ

一諸區皆無謝學校即貧人學校一箇或ハ數箇ヲ設ク
ルヲ勝手タルヘシ但入費ハ皆其區ノ引受ク
ルヘキヲ

一大學議會ヨリ別ニ區學校ヲ設ケスシテ私學
校ニ貧民ノ子弟ヲ入レ區ヨリ其費ヲ弁スル
ヲ許スヲアリ但此免許ハ何時ニテモ收回ス
ルヲアル者トス

一 數宗公然行ハル、區ニ於テハ各宗ノ小兒ノ
為メニ各箇ノ學校ヲ設ク但シ第十五章ノ場
合ハ此例ニアラス此件甚タ不便ナリテゾレ
一 區ヨリ大學議會ノ許可ヲ得テ區學校ノ教官
ヲシテ第二十三章ニ舉ル増加ノ科目ノ一部
或ハ全部ヲ授教セシムルヲアリ

第三十七章

一 教官ノ住居并ニ教場ニ用ヰルニ相應ナル地
所家屋校內ノ諸器械及ヒ教官ノ給料ハ必其
區費ヲ以テ弁スヘシ

一 一千八百五十一年一月一日以後ハ區教官ノ

給料左ノ如シ

第一 定則ノ給料

但シニ百フランク以下タルヘカラズ

第二 生徒ノ謝金

第三 補助金

但シ是ハ定則ノ給料ト生徒ノ謝金トヲ合
シテ六百フランクニ滿タサル者ニ與フ

一 右補助金ハ前年ノ生徒ノ謝金高ニ依リテ算
定スル者ナリ

第三十九章

一官ニ教官貯蓄金ノ規則アリ以テ隱居料ニ代
フ

第四十章

一寄附金、遺金アラサル時ハ區會ニ於テ小學校
ノ入費ヲ弁スルノ方ヲ議定スヘシ
一尋常ノ額金ヲ以テ入費ヲ弁スルニ足ラサル
時ハ區會ノ議定ニ依リ其區ニ増運上ヲ命ス
若シ區會ニ於テ議定セサレハ大統領ヨリ之
ヲ命ス右増運上ハ每年大蔵省ノ規則ニ從フ

テ之ヲ定ム但四種直税ノ百分ノ三ヨリ多カ
ルヘカラス

一右ノ如ク其一區或ハ合併セル數區ヨリ増運
上ヲ取ルト雖モ尚區學校ノ入費ニ給スルニ
足ラサル時ハ其縣ノ扶助ヲ請フヘシ縣ノ扶
助ヲ請フモ尚足ラサル時ハ縣會ニ於テ許決
シ一縣村ニ増運上ヲ命ス縣會若シ許決セサ
レハ大統領ヨリ之ヲ命ス右増運上モ亦毎年
大蔵省ノ規則ニ從フテ定ムル者ニシテ四種
直税ノ百分ノ二ヨリ多カルヘカラス

一右ノ如クシテ尚未ク足ラサル時ハ文部卿ヨ
リ命シテ預メ供ヘ置ケル文部省小學扶助額
金ヲ以テ之ヲ弁スヘシ
一右扶助額金ハ其翌年ニ到リ明細ニ其遣拂ヲ
認メテ差出スヘシ

第四十一章

一生徒ノ謝金ヲ取集ムルハ通常ノ四種直税ト
同方ヲ以テス而印紙ヲ貼スルヲ要セス又他
税ノ如ク時日ヲ猶豫スルヲアリ
一然レモ縣會ノ建言ニ依リ大學議會ノ許可ヲ

得テ區教官直ニ謝金ヲ請取ルヲアリ

第四條

カントン代理及ヒ他ノ小學

掛官負ノ事

第四十二章

一大學議會ニ於テ各「カントン」住居ノ名望アル
者ヲ選ミ其請持ノ學校ヲ指示シ「カントン」内
ノ公私學校ヲ監督セシメ之ヲ「カントン」代理
ト謂フ大學區監察
官代理ノ義
一代理ハ三年ヲ限リトス但シ再任スルヲアリ
又年限内ニ免官スルヲアリ此官ハ其報告ヲ

送ルヘキ大學議會及ヒ地方官ト請持ノ學校
事務ニ付キ互ニ書狀ヲ往復ス

一代理ハ大學議員ニアラサル者モ議會ニ出席
シテ請持學校ノ事件ヲ議スルヲアリ

一代理ハ少クトモ三ヶ月ニ一回ハ必ス其カン
トンノ首府ニ集會シ同勤中ヨリ然ルヘキ者
ヲ選ニ議長ト為シ教育ノ事ヲ議シ其決ヲ大
學議會ニ送ルヘシ

第四十三章

一巴勤府ニ於テハ大學議會命シテ各アロンゲ

スマンニ代理ヲ置ク此代理ハ少クトモ毎月
一回ハ必ス里正副里正治安裁判役アロンゲ

スマンノキユレ^{シエーシエトベリ}一人及ヒ他ノ僧一人^{以上}ニ
和尙^{ベリ}選舉^ト集會シ教育ノ事ヲ議シ其決ヲ

大學議會ニ送ルヘシ若シアロンゲスマン内

ニ加特力宗ノ外ニ國法ノ許セル他宗ノ小兒
ノ入學セル學校アレハ其宗門ノ教師モ集會

ニ列ノ癸言スルノ權アリ

一此議事ノ長ハ里正タルヘシ

第四十四章

一地方ノ官負ニテ各小學校ヲ監督シ風俗ヲ正
スヘキ者ハ里正「キムレ」「バ」スト「ユール」或ハ猶太
宗ノ代理ナリ人口二千以上ノ區ニ於テハ大
學議會ヨリ其區ノ佳人名望アル者一名或ハ
數名ヲ選ミ代理ト爲シ上件ノ人負ニ加ハラ
シム

一諸宗ノ教師ハ夫々其宗旨ニ關スル教ヲ監督
スヘシ

一右教師ハ何時ニテモ校内ニ入ルヲ勝手タル
ヘシ

一諸宗ノ小兒ヲ混シテ入學セシムル學校ニ於
テハ夫々ノ教師一人ツ、隨意ニ校内ニ入り
其宗旨ニ關スル教ヲ監督ス
一夫々別ニ各宗ノ學校アル時ハ其父母ヨリ公
然欲スル趣ヲ申出ツルニアラサレハ小兒他
宗ノ學校ニ入ルヲ許サス

第四十五章

一里正ハ毎年諸宗ノ教師ト合議シ管下貧民子
女ノ無謝學校ニ入ルヘキ人名ノ表ヲ作り區
會同意ノ上ニテ縣令ニ差出シ縣令之ヲ決定

ス

第四十六章

一 毎年大學議會ヨリ試考掛ヲ命シ教官タルヘ
キ學力ノ證書ヲ願フ者ヲ吟味セシム吟味ノ
時日ハ大學長官之ヲ定ム

一 右試考掛ハ七人ニシテ其内ヨリ議長ヲ選舉
ス

一 其郡ノ小學監察官一人願入ノ奉スル宗門ノ
教師一人公學校或ハ私學校教員ノ内二人ハ
必ス右試考掛ニ加ハルヲ要ス

一 右試考ハ第二十三章ノ初節ニ記スル科目ノ
ミヲ檢スヘシ

一 同章ノ末節ニ記スル增加科目ノ一部或ハ其
全部ノ試考ヲ受ケント欲スル者ハ其旨ヲ試
考掛ヘ願出ツヘシ然ル時ハ與フル所ノ證書
ニ增加科目ノ答ノ正シキ者ヲ詳記スヘシ

第四十七章

一 ス⁷夕⁷ジ⁷エ⁷ール⁷ル⁷教官見習ヲ入ルヘキ免許ナル
生ノ義
公私學校ニ於テ少クモ三ヶ年間第二十三章
ノ初節ニ記スル科目ヲ授教セル者ニハ大學

議會ヨリ「スタージ」ノ證書ヲ渡ス

一師範タルヘキ生徒ノ見習中ハ殊ニ小學監察官之ヲ監督ス

第五條 女學校ノ事

第四十八章

一女児小學校ノ科目ハ第二十三章ニ記スル外

ニ猶縫裁ノ業ヲ加フ

第四十九章

一「レットル、ドベジアン」ス宗會ノ長ヨリ與フルヲ
所持スル女ハ別ニ試考掛ヨリ與ヘル學力ノ

證書ヲ有セサルモ亦其宗旨社中ノ女教官タルヲ許ス

一女教官ノ試考ハ公ニ行ハス

第五十章

一女教官ノ試考及ヒ女學校ヲ監督シ且之ヲ視察スルノ條例ハ別ニ文部上議院ニ於テ決定スヘシ其他本法ニ準ル所ノ學校并ニ教官ノ規則ハ女學校及ヒ女教官ニモ通用スヘシ但第三十八章第三十九章第四十章及第四十一章ハ否ラス

第五十一章

一人口八百以上ニシテ能ク入費ヲ弁スル區ハ
少クトモ女學校一町ヲ設クルヲ要ス但第十
五章ノ場合ハ格別トス
一人口八百以下ノ區ト雖モ區ノ力ヲ以テ入費
ヲ弁シ得ル者ハ大學議會ヨリ命シテ女學校
一町ヲ設ケシムルヲアリ若シ數區合併シテ
女學校一個ヲ設クル時ハ土地ト形勢トニ從
ヒ女學校ハ此區ニ置キ男學校ハ彼區ニ置ク
ヘシ但シ區會ノ議ニ從フ者トス

第五十二章

一區内ニ官立或ハ私立ノ女學校ノ設アル時ハ
大學議會ノ免許ヲ受ケスシテ決シテ同校内
ニ男女ヲ混入スヘカラス

第六條

補學校ノ事

尋常小學校ノ及
ハサルヲ補フモ
ノ之ヲ補學校ト云フ即下
ノ三學校ヲ總稱スルノ名
ナリ

其一 小學寄宿校ノ事

第五十三章

一佛人齡二十五年以上ニノ既ニ五ヶ年以上小

學教官又ハ小學寄宿校ノ教官ヲ勤メ且第二
十五章ノ條例ニ符合スル者ハ大學長官ト其
區ノ里正トニ願ヒ小學寄宿校ヲ開クヲ許ス
但シ區教官ハ區會ノ説ヲ聽キ大學議會ヨリ
許スニアラサレハ寄宿校ヲ開クヘカラス
一授教ノ科目并ニ學校地所家屋ノ圖面ヲ里正
ト大學長官トニ差出スヘシ
一大學議會ハ文部上議院ニ於テ決定セル規則
ニ因リ生徒ノ風俗ヲ正シクシ健康ヲ全クセ
シムルノ方ヲ示スヘシ

一小學寄宿校ハ本法第二十六章第二十七章第
二十八章第二十九章及ヒ第三十章ノ條例ヲ
遵守シ右各章ニ記スル如ク官ノ監督ヲ受ク
ヘシ

一右規則ノ内本法第五條ニ載スル條例ニ妨ナ
キ者ハ皆女子寄宿校ニ通用スヘシ

其二 成人學校并ニ「エコールダジエルト」
學校ノ事ニ成人學校ハ大抵成人セル
ル者ノ為メニ設ク「エコールダジエルト」
校ハ少年諸職ノ見習等ト為リテ尋
常ノ小學校ニ出席スル
能ハサル者ノ為メニ設ク

第五十四章

一 區費ヲ以テ小學校ヲ設立シ成人十八年以上ノ者又ハ諸職ノ見習齡十二年以上ノ者ヲ入學セシムルナリ

一 成人學校并ニ「アプランケ」學校ノ教官ハ大學議會ヨリ之ヲ命ス

一 此學校ニハ決シテ男女ヲ混シテ入學セシムルナシ

第五十五章

一 成人學校或ハ「アプランケ」學校ヲ開カント

欲スル者ハ第二十七章第二十八章第二十九章及ヒ第三十章ノ條例ニ從フヘシ

第五十六章

一 小學校并ニ日曜學校、製造學校、病院、第七十七章ノ條例ニ符合シタル「グール、ピュブリック」講席ヲ人生必用ノ科目ヲ講シ衆人ノ出入必用書ヲ自由ナラシメテ聴講セシムル者
籍ノ書庫等ノ為メニ有益ナルモノヲ著シ又ハ其法則ヲ建ル者ニハ毎年文部省額金ノ存ヲ以テ賞譽ヲ與ヘテ勉勵セシムヘシ

其三 幼稚學校ノ事

第五十七章

一 幼稚學校ハ公私ノ二種アリ

一 官立幼稚學校ノ監督并ニ監察ノ方法及ヒ校長教員ノ條例等ハ都テ文部上議院ノ説ヲ聽キテ大統領之ヲ決定ス

一 右ノ決定ニ背ク者ハ本法第二十九章第三十章及ヒ第三十三章ノ法ニ從テ罰スヘシ

一 官立幼稚學校ノ諸規則及ヒ校長教員ノ給料等ノ事ニ至ル迄一切右ノ決定ニ從フ者トス

第五十八章

一 官立幼稚學校ノ學校長ハ大學議會ノ決ヲ取リ區會之ヲ命ス

第五十九章

一 私立幼稚學校モ官費縣費及ヒ區費ヲ以テ之ヲ補助スルヲアリ

第三篇 中學ノ事

第一條 私立中學校ノ事

第六十章

一 俾人齡二十五年以上ニシテ本法第二十六章ニ舉ル所ノ不都合ナキ者ハ第二十七章ノ規

則ノ如ク其縣ノ大學長官ニ願出テ中學校ヲ
設立スルヲアリ但シ自ラ左ノ件々ヲ大學長
官ニ差出スヘシ

第二 「スタージ」ノ證書但シ少クトモ五ヶ年
間公私中學ノ教頭或ハ監督ヲ勤メシテ
證ス

第三 「バシリエ」ノ免狀或ハ第六十二章ニ
學ル如ク試考掛ヨリ與ヘタル學力ノ證書
第三 教則并ニ地所家屋ノ圖面

一右諸紙面ヲ請取リタル大學長官ハ其趣ヲ縣

令ト開校スヘキ郡ノ檢事トニ申達スヘシ

一文部卿ハ大學議會ノ上申ニ依リ文部上議院
ノ説ヲ聽キテ「スタージ」ノ證書ナクトモ開校
ヲ許スヲアリ

第六十一章

一「スタージ」ノ證書ハ当人見習ヲ為シタル學校
ノ學校長ヨリ證拠ヲ取リテ大學議會ヨリ之
ヲ渡ス

一右證拠ニ偽アル片ハ刑法第六十章ノ罰ニ行
フヘシ

第六十二章

一文部卿ハ毎年大學議會ノ選舉ヲ以試考掛ヲ命シ學力ノ證書ヲ願フ者ヲ試験セシム此掛ハ議長タル大學長官ヲ合テ七人ナリ

一右掛ノ中ニ免狀ヲ望ム者ノ奉スル宗旨ノ教師アラサレハ大學議會命シテ更ニ其教師ヲ加フヘシ

一文部卿ハ文部上議院ノ説ヲ聽キ別ニ諸職業教員ノ學力證書ノ試考掛ヲ命スヘシ

一試考ノ科目ハ文部上議院ニ於テ決定スヘシ

一齡二十五年未滿ノ者ハ決シテ右試考ニ出席スルヲ許サス

第六十三章

一學科卒業ノ證書ハ學力ノ證書又ハバシリエ

一ノ免狀ヲ望ム者ノ為ニ用ヲ為サス

一右試考ヲ受クル者自ラ科學教頭又ハ大學區試考掛ヲ選ムトアリ

一試考ヲ受ケテ式ニ中ラザル者ハ三ヶ月ヲ經スシテ更ニ試考ヲ受クルヲ許サス假令試考ヲ受テ證書ヲ得ルトモ真ノ證書ト看做サス

第六十四章

一 第六十章ニ擧ル諸紙面ヲ指出クル次月ニ至リ大學長官、縣令及ヒ檢事ノ見込ニ於テ生徒ノ風俗并ニ健康ニ害アリトセハ大學議會ニ其趣ヲ通シ開校ヲ禁スルコトアリ

一 故障ナキ時ハ其次月ニ到リ定則ノ通り開校スヘシ

一 故障アル時ハ大學議會ヨク聴糾シ然ル後其趣ヲ願主ニ申渡スヘシ但當人文部上議院ニ控訴スルヲ許ス

第六十五章

一 本法第二十六章ニ擧ル條件ノ内一アル者并ニ以前公私學校ニ勤仕シ第十四章ノ規則ニ於テ免職サレシ者ハ皆公私中學校ヲ開クヲ許サス又教員ト爲ルヲ許サス

第六十六章

一 本法ノ條例ニ背キテ中學校ヲ開ク者ハ其地ノ懲治裁判所ニ呼出シ其罪ヲ糾シ一百乃至一千フランクノ罰金ヲ命シ且其校ヲ閉サシム

一右ノ罪ヲ再犯スル者故障アリテ未タ其可否
ヲ評決セサル前ニ開校スル者并ニ大學議會
ノ評決ニ背キテ開校スル者ハ十五日乃至一
月間ノ入牢ニ処シ且一千乃至三千ヲランク
ノ罰金ヲ命ス
一諸宗ノ教師ハ本法ノ規則ニ拘ラスシテ寺院
學校ノ少年四人以下ヲ集メ中學ノ科目ヲ授
教スルコトアリ但シ前以テ其趣ヲ大學長官ニ
願出ツヘシ大學議會ハ其人莫ク四人以内ナ
ルヤ否ヲ檢ス

第六十七章

一私立中學校内不取締アル時ハ其校長ヲ大學
議會ニ呼出シテ之ヲ譴責ス但シ其由ヲ公布
スルコトアリ又公布セサルコトアリ
一右譴責ヲ受ケタル者ハ更ニ控訴スル所ナカ
ルヘシ

第六十八章

一私立中學校長、教員其他監督ノ人々風俗行狀
宜シカラスシテ大學長官或ハコニステール、
ビブリック檢職ノ義ニシテ國中平穩ヲ保護シ
行狀ヲ正シ一般ニ國民ノ害ヲ妨グ

者ナヨリ告訴スル時ハ當人ヲ大學議會ニ呼
出シ一時其職ヲ禁スルヲアリ又ハ終身之ヲ
禁スルヲアリ但シ刑法ニ於テ重罰或ハ輕罰
ヲ行フノ權ヲ妨クルヲナキヲ要ス
一右ノ如ク其職ヲ禁セラレシ者ハ其申渡ヨリ
十五日以存ニ文部上議院ニ控訴スルヲ許ス
一當人控訴スルトモ大學議會ニ於テハ斷然其
処置ヲ行フ者トス

第六十九章

一私學校モ官縣或ハ區ヨリ地所家屋ト補助金

トヲ給スルヲアリ但シ補助金ハ其校一ケ年
入費額ノ十分一ヲ超ルヲナシ

一右補助金ヲ與フヘキト否トハ大學議會ノ説
ニ由ルヘシ

一一千八百〇八年十二月十日ノ決定ニ由リユ
ニ置ルシテノ管轄ト為セル建物ハ區ヨリ
願出レハ大統領ヨリ命シテ私立中學校ノ用
ニ供スルヲアルヘシ

第七十章

一從來設立セル寺院中學校ハ別ニ規則ヲ設ケ

ス只以來官ノ監督ヲ受クルヲ要スルノミ
一此後寺院中學校ヲ設立スルニハ必ス官ノ許
可ヲ受クヘシ

第二條 官立中學校ノ事

第七十一章

一官立中學校ハ「リセー」及「區ノコレージュ」ナリ
一右両校ニハ寄宿寮ヲ設クル「ア」アリ

第七十二章

一「リセー」ハ官之ヲ設立シ縣及「市街」ノ費ヲ以
テ之ヲ助ク

一區ノ「コレージュ」ハ區費ヲ以テ設立シ官ヨリ之
ヲ助クル「ア」アリ

第七十三章

一區會ヨリ願出テ市街ニアル區ノ「コレージュ」ヲ
改メ「リセー」トスル時ハ家屋ノ營繕、必用諸器
具ノ費、一切其市街ヨリ辨スヘシ

一市街ノ願ニ因リテ市街ノ「リセー」ニ寄宿寮ヲ
設ケント欲スル時ハ必ス市街ヨリ其地所家
屋ト必用ノ諸器具トヲ給スヘシ且ツ文部卿
同意ノ上十年間ノ「グ」ールス「グ」ールストハ生
徒ノ月俸ヲ謂フ

故ニ百ガールスト言ハ給費生百人ノ月俸
ナリ此他半ガールスト四分一ガールストアリ
若干ヲ設クヘシ但シ區ノ獨力ヲ以テスルア
リ又ハ縣ノ補助ヲ請フアリ十年ノ後ニ至
リ市街并ニ縣ヨリ自在ニブールストヲ廢スル
一アリ然レ氏既ニ與フル者ハ此例ニフラス
一官ヨリ寄宿寮ヲ保續セント欲スル時ハ之ニ
屬スル地所家屋ト諸器具ハ其俵之ヲ用テ寄
宿寮ヲ廢スルニ至ラサレハ其區ニ返スナ
レ

第七十四章

一區ノコレージュヲ設立スルニハ必ス其市街ヨ
リ左ノ件々ヲ全クスルノ目的アルヘシ即チ
學校所用ノ家屋ヲ建テ之ヲ維持保續スル事、
教場ノ諸器具ヲ備フル事、生徒ヲシテ入塾セ
シムル時ハ寄宿寮ノ器械ヲ具フル事、少クモ
五ヶ年間ハ校長并ニ教頭ノ定則ノ給料ヲ保
續スル事ナリ、學校ノ入金ト寄宿生并ニ外來
生ノ謝金トヲ合レテ右給料ニ足ラサルハ
必ス其區ヨリ之ヲ辨スヘシ
一既ニ設立セル區ノコレージュ未タ右ノ目的ナ

キ者ハ今ヨリニケ年ノ間ニ之ヲ全クスルヲ要ス

第七十五章

一區ノコレージュノ教科ハ其土地ノ需用ニ應シ區會ノ建言ト大學議會ノ説トヲ聽キ文部上議院ニ於テ文部卿之ヲ決定ス

第七十六章

一文部卿ハ官立中學校ノ官負過失アル時其輕重ニ應シテ責罰ヲ命ス其方左ノ如シ
第一 大學議會ニ於テ譴責スル

第二 文部上議院ニ於テ譴責スル

第三 等級ヲ下ス

第四 一年以内其職ヲ禁スル但シ給料ノ全數或ハ其一部ヲ奪フアリ又之ヲ奪ハサルアリ

第五 文部上議院又ハ常議官ノ議ヲ取リテ免職スル

一文部卿ハ大學ノ教頭ニ右ノ責罰ヲ命スルアリ但シ第三ノ罰ハ否ラス

一文部上議院ノ説ヲ聽カスシテ免職ヲ命スル

ナシ

一免職ハ第十四章ノ條例ニ從テ行フヘシ

第四篇 通則

第七十七章

一本法ノ條例中小學校ニ關スル者ハ中小ノク
ール、ビブルックニ通用スヘシ、

一大學議會ハクールの、ビブルックノ教科ノ等級ニ
從テ本法ノ條例殊ニ第五十四章ノ末節ヲ通
用セサルヲ許スアリ

第七十八章

一外國人モ文部上議院ニ於テ決定セル規則ニ
從テ中小學校ヲ關クヲ許スアリ

第七十九章

一官學校ノ助教スターシ校ヲ教員ト為ルヘキ人
ルニアルスターシ生、官許ヲ得タル宗旨會社
ノ教育ニ尽力セル者、大學師範學校ノ生徒、
ートル、デチュード、舎長ノ類ニシテ生徒トコレ
ーシ弁ニリセーノ長、及ヒ教頭ハ募共闖引ノ
前ニ大學長官ノ面前ニ於テ十ヶ年間其身ヲ
教育事務ニ委スル旨ヲ誓フテ其約ヲ遂クレ

ハ兵役ヲ免ス

第八十章

一 本法ノ規則ニ背ク者ハ刑法第四百六十三章ノ法ニ處スヘシ

第八十一章

一 行政規則ヲ建テ本法ヲアルゼリ^ルニ施行スヘキ條例ヲ定ムヘシ

第八十二章

一 從來ノ法命令又ハ決定ノ本法ニ符合セサル者ハ皆之ヲ廢ス

假設ノ規則

第八十三章

一 既ニ私立中小學校ヲ設立シ未タ曾テ中絶セサル學校長ハ第五十章及ヒ第六十章ノ規則ニ從ハスレテ其業ヲ永續スルヲ許ス

一 故アリテ其業ヲ中絶セル者ハ「スター」^ジノ條例ニ從ハスレテ再ヒ開業スルヲアリ

一 私立中小學校ニ於テ教頭并ニ監督ヲ勤メシ年月ハ「スター」^ジノ年月ト看做スヘシ

第八十四章

一 本法ハ一千八百五十年九月一日ヨリ施行ス
ヘシ

一 現今ノ官負ハ右期限迄其職ヲ勤ムヘシ

一 然レモ文部上議院ハ更ニ之ヲ編制レ一千八

百五十年九月一日前ニ文部卿ヨリ呼集ムル

一 アルヘシ既ニ呼集ムレハ直ニ本法第一章

第二章第三章第四章第五章但レ第五章ノ内
第三節ハ否ラス

第六章及ヒ第七十六章ノ規則ヲ遵守スヘシ

一 一千八百五十年一月十一日ノ法ハ一千八百

五十年九月一日迄延期ス

一 此期限前ニ文部上議院ヲ編制スル時ニ方リ

免官ヲ命セラレシ教官控訴スル一アルハ常

議官ノ議ヲ取リ文部卿之ヲ裁決ス

第廿六章

一 大學ノ法ヲ布告スル迄文部上議院并ニ常議

官ハ大學ノ事ニ関レ各其任ニ應レテユニウエ

ルレテ一議院ノ職務ヲ勤メ新置ノ大學議會

ハ舊大學議會ノ職務ヲ勤ムヘシ

膳寫滿

理事功程

佛國

五

理事功程卷之五目次

佛國ノ二

學制

第二

但シ千八百五十年四月二十日ノ布告
縣會授言ノ給料ニ關スル區會及ヒ

第三

一ノ事
シ文部八百五十年五月八日ノ布告但
告但シ八百五十年七月二十九日ノ布

第四

第一條 文部上議院ノ事

第二條 大學區廳ノ事

其一 大學區廳ノ地所家屋ノ事

其二 大卒長官ノ事

其三 大學議會ノ事

其四 大卒區書記官ノ事

第三條 監察ノ事

第四條 カントレ代理及ヒ小學官負
ノ事

第五條 小學ノ学力證書ヲ與フル試

考委員ノ事

第六條 中學ノ学力證書及ヒ諸種ノ
等級免狀ヲ與フル諸官ノ事

第五

公一千八百五十年十月七日ノ布告但シ

第一條 私學ノ事

第二條 公學ノ事

其一 公立小學校ノ事

其二 公學教官ノ事

第六

條例ノ事
佛國ニ於テ教育ニ關スル告

其一 外國人佛國ノ私立中小學校

ニ關スル事

其二 カールピュブリックノ事

其三 外國人佛國公学校ノ官負ニ

任スル事

第七

一千八百五十年十二月二十日ノ布告但私立中学ノ吏

第八

一千八百五十年十二月二十日ノ布告但中李ノ吏

第九

一千八百五十年十二月三十日ノ布告但公私小李寄宿校ノ吏

第一篇

私李教官ノ事

第二篇

公李教官ノ事

第三篇

公私教官ノ通則

第十

一千八百五十年三月三十一日ノ布告但官ノ補助ヲ受ケテ和尚ノ設立学校ノ私立

第十一

一千八百五十年三月三十一日ノ布告但入学免状ヲ以テ小学ノ学力證書ニ代用スヘキ専門校ノ吏

第十二

一千八百五十二年三月九日ノ憲法布告但公学ノ吏

第一條

教育ニ關スル上等諸官ノ事

第二條

文部上議院ノ事

第三條

大監察ノ事

第四條

別則

第十三

一千八百五十二年十二月三十一日ノ勅命但童男童女小學校并ニ少女学校ノ吏

第一篇

區學校并ニ教官ノ事

第二篇 女學校ノ事

第三篇 謝金ノ事

第十四 勅命但如稚學校保護統轄委員ノ事
一八八五年五月十六日

第十五 教育憲法
一八八五年六月十四日

第一篇 學政

第二篇 大學校別則

第十六 勅命但如大李區ノ事
一八八五年八月二十二日

其一 大學區分ノ事

其二 翰林院并大李校ノ事

其三 大學議會ノ事

其四 大學區職制ノ事

其五 教育縣議會ノ事

其六 巴勒府大學區ノ事

理事功程卷之五

佛國ノ二

學制

○第二

一、但教官ノ給料ニ関スル區會及縣會
投言ノ
更

第一章

一區會ハ來五月ノ集會ニ於テ尋常ノ歲入ヲ以
必要ノ金額ヲ給スルヲ投言スベシ若其歲
入必要ノ金額ヲ給スルニ足ラサル時ハ百分
三ノ増稅ヲ投言スヘシ必要ノ金額ハ第一來

一千八百五十一年區教官ニ與フヘキ定則給料ナリ但二百フランクニ下ルヘカラス第二補助金ナリ右ハ同年教官定則ノ給料ト月謝トヲ合シテ六百フランクニ滿タサル者ニハ其高ニ滿タレハヘキ補助金ヲ云フ

第二章

一戸長ハ一千八百四十九年五月一日ヨリ一千八百五十年五月一日ニ至ル迄各教官請取ル所ノ月謝表ヲ收税官ヨリ請取ルヘシ

一右月謝表ハ區會ニ於テ教官ニ與フヘキ補助

金ヲ定ムルニ參考スルモノナリ

第三章

一千八百五十一年區学校ノ維持ト教官ノ給料トニ關スル區會ノ決議ハ戸長直ニ之ヲ郡令ニ送り郡令之ニ其意見ヲ添ヘテ六月一日前ニ縣令ニ送ルヘシ

一縣令ハ右決議ヲ簡冊ニ記シテ一千八百三十三年七月十六日ノ命令第六章ノ体裁ニ倣之ヲ縣會ニ示スヘシ

第四章

一區ノ資金ヲ以テ孝費ヲ辨スルニ足ラサル時
ハ縣會必次會ニ於テ縣ノ尋常歲入又ハ百分
二ノ増稅ヲ以テ必要ノ金額ヲ給スルヲ投言
スヘシ必要ノ金額ハ第一一千八百五十一年
教官ノ定則給料二百フランクナリ第二補助
金ナリ右ハ同年教官定則ノ給料ト月謝トヲ
合シテ六百フランクニ滿タサル者ニハ其高
ニ滿タレムヘキ補助金ヲ云フ

第五章

一文部卿兼教部卿及内務卿大藏卿ハ此布告ノ

内各其省ニ關スル要件ヲ施行スヘシ

○第三 一千八百五十年五月八日ノ布告但シ
文部上議眞選舉ノ吏

第一章

一文部上議員ヲ選舉スヘキ時ハ文部卿ヨリ其
人眞ト期限トヲ大和尚、和尚、エグリズ、レフォル
メルノ僧會、シンフエツシオン、ドーグスブール
ノ僧會、獨太宗ノ僧會、參議院、覆審院及碩孝社
ニ達ス

第二章

一文部卿ヨリ各大和尚或ハ各和尚ニ投票ノ札

ト封筒トヲ送ル

一大和尚或ハ和尚ハ投票スレハ筒中ニ納レテ之ヲ封ス但上ハ書キセス

一右投票ハ解封セスレテ之ヲ文部卿ニ送ル但開札委員立會ヲアサレハ決シテ開札スルヲナシ

一文部卿ノ違ヤル期限後ニ送レル投票ハ其數ニ算入セス

一開札委員ハ封ヲ解キ筒ヲ去リテ直ニ之ヲ箱ニ納ルヘシ

第三章

一開札委員ハ其長タル文部卿ト文部卿ノ選メル大和尚或ハ和尚二名ナリ又書記官一名ヲ加フルヲアレトモ書記官ハ投言シテ可否ヲ決スルノ權ナシ

第四章

一投票中ノ人名ハ其時選用スヘキ人員ヨリ其數多キト少キトヲ論セス總テ之ヲ採用スヘシ

一投票中人名ノ數其時選用スヘキ人負ヨリ多

キ時ハ漸々多数ノ者ヲ選ミ人負充ツルニ至
レハ其餘ヲ除ク

第五章

- 一 選舉ハ投票ノ多寡ニ依リテ決定ス
- 一 札數相等レキ者アレハ其大船尚及ヒ和尚ノ
内久レク職ニ在ル者ヲ選ハ新田モ亦等シケ
レハ齡ノ長セル者ヲ舉ク
- 一 選ニ當レル者其職ヲ辭スルハ他ニ札數コレ
ニ次ク者アレハ之ヲ選舉ス

第六章

- 一 エグリズ、レフォルメ、及ヒコンフェッションドー
グスブル、僧會ノ集會ハ全佛國中同日ニ於
テスヘシ

- 一 文部卿ヨリ僧會ノ諸長ニ報告セシヨリ集會
ノ日ニ至ル迄ハ少クトモ十五日ヲ要スヘシ
- 一 文部卿ヨリ各僧會ノ長ニ送リシ集會ノ令ハ
其長直ニ之ヲ僧會ノ諸員ニ送ル

第七章

- 一 僧會ハ出席ノ數全員ノ半数ヨリ一人以上多
カラサレハ決議スルヲナシ

一選舉ハ密ニ之ヲ議シ投票ノ全數ニ比較シテ
半數ヨリ一枚以上多キ者ヲ採ル
一僧會ノ長ハ八日間ニ決議ノ謄寫ヲ文部卿ニ
送ル

第八章

一右決議ノ開札委員ハ其長タル文部卿ト文部
卿ノ選メル兩派^エフグ^エツズ、^オレ^フオル^メド^ス及^ビゴ
ル^ノ同^{スト}ユール各一名トニシテ又書記官一
名ヲ加フル^{アリ}但書記官ハ投言シテ可否
ヲ決スルノ權ナシ

第九章

一文部上議員ノ選舉ハ投票ノ多寡ヲ以テ之ヲ
決ス

一札數相等シキ時ハ同ストユールノ旧キ者ヲ選
ム新田モ亦等シケレハ齡ノ長セル者ヲ舉ク

第十章

一猶太宗ノ僧會ハ出席ノ數全員ノ半數ヨリ一
人以上多カラサレハ選舉スル^{ナシ}
一選舉ハ密ニ之ヲ議シ投票ノ全數ニ比較シテ
半數ヨリ一枚以上多キ者ヲ採ル

第十一章

一 參議院覆審院及七碩學社ニ於テハ其院其社ノ規則又ハ因襲ノ例ニ依リテ選舉ス

第十二章

一 第三章及七第八章ニ記載セル開札委員ノ内檢書ト參議院覆審院碩學社及七猶太宗僧會ノ選舉内檢書トハ初會ノ時文部卿コレヲ文部上議院ニ示ス

第十三章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行シ而シテ之ヲ

官報新聞ニ記載スヘシ

○第四

一千八百五十年七月二十九日ノ布告但教育諸官ノ吏

○第一條 文部上議院ノ吏

第一章

一 文部卿不在ノ時ハ副議長コレニ代リテ上議院ノ長ト為ル副議長ハ大統領毎年上議院中ヨリ選舉スル者ナリ

第二章

一 大統領ハ毎年文部上議院中ヨリ書記官一人ヲ命ス

第三章

- 一文部上議院ハ三个月毎ニ常會ヲ為ス
- 一召集ハ文部卿コレヲ決ス
- 一常會ト臨時會トヲ論セス集會ノ日數ハ總テ召集ノ時預メ之ヲ定ム但後日ニ到リテ其日數ヲ増スヲアリ

第四章

- 一文部卿若シ法案行政規則并ニ永久規則布告ノ草案ヲ作り文部上議院ニ下シテ議セシメント欲スル時ハ草案委員ヲ命シテ已ヲ輔ケ

シハルヲアリ

- 一文部上議院ハ事務ニ熟練セル者ヲ選ニ院中ニ入レ右草案并ニ教育ノ大体ニ付キ其説ヲ聽クヲアリ

- 一文部上議院ニ他省ノ官員ヲ参入スルニハ必先ッ其省ノ長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五章

- 一文部卿ハ毎年常議官中ヨリ一人ヲ選ニ之カ長ト為ス

第六章

一 常議官ハ給料アル他職ヲ兼帶スヘカラス

第七章

一文部上議院ニ議吏ヲ下ス時ハ啓告官一名ヲ置ク啓告官ハ文部卿コレヲ命シ又ハ文部卿ノ代理トシテ上議院ノ副議長コレヲ命ス啓官ハ衆ニ代リテ議吏ノ決ヲ述ル者

第八章

一 行政訴訟并ニ局内規律ニ關スル訴訟ハ出願ノ順次ヲ以テ文部上議院書記局ノ別簿ニ記載ス

一 右ハ記載ノ順序ニ從ヒ次會ニ於テ之ヲ裁決ス

一 啓告官ハ集會ノ時議スヘキ条件ト議案トヲ記シ前日コレヲ書記局ニ送り以テ各議員ノ覽ニ供ス

一 局内規律ニ關スル訴訟ハ被告人ノ情願ニ從ヒ啓告官之ヲ召出シテ吏實ヲ審査スヘシ又被告人自ラ文部上議院ノ集會ニ出テ吏情ヲ述ナルヲ許ス

第九章

一 文部上議院ハ出席ノ數全員ノ半數ヨリ一人
以上多カラサレハ議事ヲ開クヘカラス
一 投言同數ナル時其案件行政訴訟ニアラス亦
局内規律ニ關スル訴訟ニアラスハ議長コ
レヲ決スヘシ若シ行政訴訟ナレハ更ニ議決
ヲ開キ特ニ前會ニ出席セサル者ヲ集メテ之
ヲ議セシム而シテ復タ同數ナレハ議長コレ
ヲ決ス局内規律ニ關スル訴訟ナレハ被告人
ニ便ナル說ヲ取ルヘシ

第十章

一 文部上議院ノ評決ニハ議長及ヒ書記官押印
スヘシ
一 右評決ハ謄寫ハ必書記官ヨリ之ヲ與フヘシ
一 文部卿ノ許可ヲ受ケズシテ右謄寫ヲ院外ノ
者ニ示スヲナシ

第十一章

一 文部上議院ノ說ヲ取リタル布告又ハ決議ニ
ハ文部上議院協議ノ文字ヲ記スヘシ
一 文部上議院ノ說ハ文部卿ノ許可ヲ受ケサレ
ハ之ヲ公ニスルヲナシ

第十二章

一 行政訴訟又ハ局内規律ニ関スル訴訟ノ文部
上議院ニ於テ決スルモノハ文部卿ヨリ之ヲ達
ス

一 原告被告共ニ其決議ノ草案ヲ見ルヲ許ス
第十三章

一 文部上議院ノ事務規則ハ上議院ニ於テ之ヲ
決議ス

一 常議官局中事務ノ規則ハ常議官草案ヲ起シ
文部卿之ヲ決定ス

○第二條 大學區廳ノ事

○其一 大學區廳ノ地所家屋ノ支配

第十四章

一 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第十
三章ニ記スル所ノ縣ヨリ供スヘキ大學區廳
ノ地所家屋ハ少クモ大學長官ノ室一所大學
議會ト學力試考トノ室一所大學區書記局一
所大學區コミット記録トノ室一所ヲ要ス而
シテ各率必要ノ器具ヲ備フヘシ

○其二 大學長官ノ事

第十五章

一 大學長官ハ給料アル他職ヲ兼帶スヘカラス

第十六章

一 大學長官ハ大統領コレヲ命ス

一 大學長官ヲ數等ニ分チ大統領其等數ヲ決定ス

一 給料ハ等級ニ依リテ區別アリ

一 等級ハ其人ノ才力ニ依リテ居ル所ノ地ニ依ラス

○其三 大學議會ノ吏

第十七章

一 大學議員ヲ選舉スヘキ時文部卿ヨリ其趣ヲ達スレハ上等裁判所下等裁判所縣會及ヒ猶太宗ノ僧會コレヲ選舉スヘシ

一 更ニ大學議員ヲ選ムヘキ時大學長官ヨリ之ヲ達スレハ上等裁判所下等裁判所及ヒ猶太宗ノ僧會ハ直ニ旧議員ニ代ルヘキ者ヲ局中又ハ社中ヨリ選ミ縣會ハ次會ニ於テ旧議員ニ代ルヘキ者ヲ選ムヘシ

一 選舉ハ密ニ之ヲ議シ投票ノ全數ニ比較シテ

半数ヨリ一枚以上多キモノヲ採ル

一 上等裁判所又ハ下等裁判所ノ長僧會ノ長及
ヒ縣令ハ時宜ニ依リ各選舉ノ内檢書ヲ大學
長官ニ送り大學長官ハ最初集會ノ時コレヲ
大學議會ニ示ス

一 右ノ内檢書ハ大學議會ノ議事簿ニ記ス

第十八章

一 教育憲法第十章ニ從ヒ代理ト為リタル者ハ
特ニ決議アルニアラサレハ代理ノ職ヲ施行
スルヲナシ

一 文部卿及ヒ和尚ハ其命スヘキ人負ヲ選舉セ
ル時其決議ヲ大學長官ニ通スヘシ

一 右決議ハ大學長官ヨリ大學議會ニ送り議決
簿ニ記載ス

第十九章

一 大和尚又ハ和尚二人同縣内ニ住スレハ二人
共ニ大學議會員ト為ル然ル片ハ更ニ教育憲法
第十章第六節ニ記スル者ヲ命セス

第二十章

一 大學長官不在ノ時ハ縣令大學議會ノ長ト為

ル

一 大學議會ノ書記官ハ文部卿毎年コレヲ大學議會中ヨリ選任ス

一 大寺長官ノ許可ヲ受ケスレテ大學議會ノ内檢書ヲ他ニ漏スヲナシ

第二十一章

一 大學議會ハ少クモ一个月ニ二回集會ス又臨時ニ招集スルヲアリ集會ノ日ハ議長コレヲ定ム

第二十二章

一 議長ヨリ翰林院ノ長ヲ招クニアラサレハ大學議會ニ於テ翰林院ノ吏ヲ議スルヲナシ

第二十三章

一 投言同数ナル時其議吏行政訴訟ニアラス亦局内規律ニ関スル訴訟ニアラサレハ議長コレヲ決ス

一 議事若シ行政訴訟又ハ局内規律ニ関スル訴訟ナレハ第九章ノ條例ニ從フテ之ヲ處スヘシ

第二十四章

一 教育憲法第十四章第六節ニ從ヒ局内規律ニ
關スル訴訟ノ議ヲ大學議會ニ下シテ議セシ
ムル時ハ大學議會ニ於テ啓告官ヲ命シ其情
證據ヲ檢察シ被告人ヲ審査シ次會ニ至リ其
啓告ヲ出サシム

一 大學議會ヨリ臨時ニ檢察人ヲ代フルヲアリ

一 大學議會ニ於テ其ノ可否ヲ檢察シ可否決ス
レハ其罰ヲ議ス

第二十五章

一 行政訴訟ニ於テハ原告ヨリ證據ト為ルヘキ

紙面ヲ大學區書記局ニ出サシメテ收證ヲ與

フ

一 右紙面ニ番号ヲ記シ書記局ニ到着セル順次
ニ從テ之ヲ裁判ス

一 其案件毎ニ啓告官一名ヲ命シ次會ノ時啓告
ヲ出サシム

第二十六章

一 局内規律ニ關スル訴訟ノ議ヲ大學議會ニ下
ス時ハ議會ヨリ一人ニ命シテ其情ヲ檢シ時
日ヲ期シテ啓告ヲ出サシム

一 大學議會ハ右啓告ニ依リテ莫ノ可否ヲ議ス
一 可否決スレハ被告人ヲ召出シテ其旨趣ヲ聴
キ證人アレハ又コレヲ照査ス

第二十七章

一 行政訴訟及ヒ局内規律ニ關スル訴訟ノ大學
議會ニ於テ決スルモノハ八日内ニ大學長官
ヨリ命シテ之ヲ達セシム

一 文部上議院ニ出訴スルヲ許スルハ大學長官
ヨリ教育憲法ノ日限内ニ文部上議院ニ出訴
シテ可ナルヲ當人ニ告知スヘシ

第二十八章

一 大學議會ノ決議ニ服セシテ更ニ出訴スル
時ハ其書面ヲ大學區書記局ニ出シ書記局ヨ
リ收證ヲ與フヘシ

一 大學長官若レ大學議會ノ決議ニ服セサル時
ハ書面ヲ以テ之ヲ原告被告ノ内自己ノ是ト
セル者ニ告知シ右書面ノ謄寫事實ノ紙面
トヲ文部卿ニ送り文部卿コレヲ文部上議院
ニ下レテ議セシム

第二十九章

一 大學議會ハ教員又ハ全ク關係ナキ人ヲ招キ
其説ヲ聽クヲアリ

一 教育吏務ノ官員ハ大學長官ノ許可ヲ受ケス
シテ之ヲ招クヲナシ

一 右ノ如ク大學議會ニ招カレシ人ハ其説ヲ述
ルルニミニシテ議吏ヲ決スルニ方リ投言スル
ノ權ナシ

○其四 大學區書記官ノ吏

第三十章

一 大學區書記官ヲ數等ニ分ツ其等數ハ大統領

コレヲ決定ス

一 給料ハ等級ニ依リテ區別アリ

一 等級ハ其人ノ才力ニ依リテ居ル所ノ地ニ依
ラス

第三十一章

一 始メテ此官ニ任スル者ハ必初等トス

一 乙級ニ依リテ必クモ二年間勤メサレハ甲級
ニ擧クルヲナシ

一 本章ノ規則ハ新ニ大學區廳ヲ設クル所ニ於
テハ通用セス

第三十二章

一 司シリエ得業士ノ免狀又ハ小季ノ学力證書

ヲ示スニアラサレハ大學區書記官ニ任スル

ヲナシ

一 現今大學區書記官又ハ大學區コミシノ職ニ
アル者并ニ曾テ此職ヲ勤メシ者ハ此例ニア
ラス

第三十三章

一 大學區書記官ハ大學議會書記官ノ指揮ヲ受
ケテ議會ノ内檢書ノ草案ヲ作ル

一 大學區書記官ハ大學區ノ記録ヲ預リ又大學
長官ノ命ヲ受ケテ之ヲ謄寫スルヲアリ

一 大學區書記官ハ大學長官ノ命ヲ受テ大學區
諸局ノ支務ヲ管ス

一 別ニ會計官ヲ置カサル大學本部ニ於テハ大
學區書記官其金ヲ預ル但シ此時ハ大藏卿ヨ
リ其趣ヲ命シ而シテゴ一シオヌマシ金錢ニ
役人ハ皆其取扱フ所ノ金高ニ應シテ若干ノ
金ヲ政府ニ預ケ置クヲ法トス之ヲゴ一シオ
ト云フニ納ム

○第三條 監察ノ吏

第三十四章

一大監察及ヒ上等監察官ハ文部卿作ル所ノ選舉人名表中ヨリ選ミ預メ文部上議院ノ議ヲ取リテコレヲ命ス

第三十五章

一小學監察官ヲ命スルニハ大寺長官ノ作レル選舉人名表ヲ大學議會ニ示シ大學議會ノ説ヲ添ヘテ文部卿ニ送ル

第三十六章

一大學區監察官及ヒ小學監察官ハ給料ヲル他

職ヲ兼帶スヘカラス

一文部卿ハ大學議會ノ説ヲ取リ小學監察官ヲシテ棄兒又ハ製造所内ノ童子ヲ監察セシムルヲアリ

第三十七章

一小學監察官ヲ分テ數等ト為シ其等數ハ大統領コレヲ決定ス
一給料ハ等級ニ依リテ區別アリ
一等級ハ其人ノ才力ニ依リテ居ル所ノ地ニ依ラス

一 始メテ此官ニ任スル者ハ必初等トス

一 乙級ニアリテ少クモ一个年間勤メサレハ甲級ニ擧クルナシ

一 本章ノ規則ハ始テ小学監察官ヲ置ク所ノ地ニハ通用セス

第三十八章

一 特ニ試考ヲ受ケテ能ク其職ニ称フヲ示スニアラサレハ小寺監察官ニ任スルナシ
試考ノ科目ハ追テ教育憲法第五章ニ依リテ決定スヘシ但シ科目決定ニ至ル迄ハ從來ノ規則ニ從フテ試考スヘシ

第三十九章

一 左ノ件々ヲ具スル者ニアラサレハ試考ノ席ニ出ルヲ許サス

第一 齡二十五年以上

第二 文学得業士ノ免狀又ハ学力證書但教

育憲法^{バシリエ、エ、レットル}布告ノ前ニ證書ヲ得タル者ハ上等

小学科目ノ證書右布告ノ後ニ得タル者ハ同法第二十三章ノ科目ヲ漏ラサス試考シタル證書

第三 少クモ二年間教員又ハ大學區書記官

ヲ勤メレト或ハ前ニ二年間故ノ小卒上等

コミテ山学區取ニ加ハリレト又ハ二年間

大學議會ノ代理ト為リテ学校ヲ監督セシ

ト

一 前節ニ記スル条例ハ始テ監察官ヲ設クル時

ニハ通用セス

第四十章

一 前ノ小卒監察官或ハ副監察官、師範学校長、區
ノコレレニ長、私立中学校長、及ヒ卒士ハ第三

十八章ノ如ク特ニ試考ヲ受クルヲ要セス

第四十一章

一 行政規則ニ從ヒ巡迴旅費ヲ與フル者ハ文部
上議院ノ内文部卿ノ代理、大監察、上等監察官、
大學長官、大學議會ノ内教育憲法第十八章ニ
從ヒ大學長官ノ代理ト為ル者、大學區監察官、
及ヒ小學監察官是ナリ

第四十二章

一 教育憲法第十八章ニ從ヒ監察官ヲ命セラレ
シ者ハ視聽セル違式ノ檢察書ヲ誌スヘシ

一 同法第五章ニ舉クル制禁ノ書籍ヲ用ナル者
アレハ直ニ之ヲ收メ檢察書ヲ添テ大學長官
ニ送り大寺長官コレヲ大學議會ニ下シテ議
セシム

第四十三章

一 小学監察官ハ諸種ノ小學校ニ補助金并ニ獎
勵金ヲ與フルニ付キ自己ノ説ヲ大學長官ニ
述ヘ且其金ノ使用宜ヲ得ルヤ否ヲ檢スヘシ
一 小寺監察官ハ區教官ノ等級ヲ進ムヘキ者并
ニ新ニ區教官ニ選舉スヘキ者ヲ檢シテ大學

長官ニ出ス而シテ大學議會ニ於テ之ヲ評決
シテ表ト為ス小学監察官ハ又區教官ヲ命シ
及ヒ學校設立ノ要件ニ付キ自己ノ説ヲ大學
長官ニ述フ

一 小學監察官ハ教育憲法第四十二章第四節ニ
記載スル「ガント」ニ代理ノ集會及ヒ此布告第
四十六章ニ記スル集會ニ出席シ莫ノ可否ヲ
決スルニ方リ投言スルノ權アリ
一 小學監察官ハ區教官ヨリ出願スル要件并ニ
私寺校教官ノ小寺寄宿校ヲ開クノ願ニ付キ

自己ノ説ヲ大學長官ニ述フ

一 小學監察官ハ師範學校ヲ監察シ殊ニ小學校

ニアル縣費師範生徒ヲ監督ス

一 小學監察官ハ教育憲法第三十六章第四節ノ

條例ノ如ク私學校ノ區費生徒ヲ監督ス

一 小學監察官ハ三个月毎ニ其巡迴セル區内小

學ノ景況并ニ其官負ノ勤惰ヲ記シテ大學長

官ニ報ス

○第四條 カントレ代理及ヒ小學諸官

ノ吏

第四十四章

一 公私小學校長并ニ教頭ハ大學議會ノ代理ニ

任スルヲナシ

第四十五章

一 代理ハ少クモ一月ニ一回ハ其管内公私諸學

校ヲ巡檢ス

一 代理巡行中視聽スル所ノ緊要事件ハ盡ク之

ヲ小學監察官ニ報ス

第四十六章

一 大學長官又ハ大學議會ヨリ考案ヲ下ス時ハ

郡中ノカントニ代理郡ノ首府ニ會シ郡令コ
レカ議長ト為リテ論議スルヲアリ

第四十七章

一 巴勒府ニ於テハ各アロングスマン其數二十
區ノ内必クモガルル正アロングスマン猶大
如シノ内必クモガルル正アロングスマン即ハ區
シノ如毎ニ代理一名ヲ置ク其他波羅特宗及ヒ
猶太宗ノ孝校ノ為メニハアロングスマン毎
ニ別ニ代理ヲ命スルヲアリ
一 小學監察官ハ毎月カントニ代理ノ集會ニ出
席シ莫ノ可否ヲ決スルニ方リ投言スルノ權

アリ

第四十八章

一 某宗ノ子女ノ為メニ別ニ設ケタル孝校アリ
テ區内ニ此宗ノ教師アラサレハ和尚又ハ僧
會ヨリ命シ隣區ノキクレハストユール或ハ其
代理ヲシテ教育憲法第四十四章ノ條例ノ如
ク之ヲ監督セシム

第四十九章

一 教育憲法第四十四章ノ條例ニ從ヒ學校ノ監
督ヲ命セラレシ者ハ戸長ヲ議長ト為シテ會

議シ其説ヲ小学監察官及ヒ「カント」代理ニ
報スルヲアリ

○第五條 小學ノ学力證書ヲ與フル試
考委員ノ吏

第五十章

一 小學ノ学力證書ヲ與フル試考委員ハ毎年少
クモ二回集會ス

一 右試考委員ハ五人以上出席セサレハ試考ス
ルヲナシ

一 決議ハ投票ノ多キニ從フ

一 投票同數ナル時ハ議長コレヲ決ス

一 證書ノ体裁ハ文部卿コレヲ決定ス

一 齡十八年以下ノ者ハ試考ノ席ニ出ルヲナシ

○第六條 中學ノ学力證書及ヒ諸種ノ
等級免狀ヲ與フル諸官ノ吏

第五十一章

一 中學ノ学力證書ヲ與フル試考委員ハ一个年

ニ 四回 即一月四月七月十月 集會スヘシ

一 右試考委員ハ五人以上出席セサレハ試考ス
ルヲナシ

- 一 決議ハ投票ノ多キニ從フ
- 一 投票同數ナル時ハ議長コレヲ決ス
- 一 試考ヲ願フ者ノ姓名簿ハ大學區書記局ニアリ集會ノ八日前ヨリ其前日迄ニ其姓名ヲ書記スヘシ

第五十二章

- 一 試考委員ヨリ與フル所ノ證書ニハ其試考セラル科目ヲ記ス
- 一 證書ハ試考委員ノ決議ヨリ十日ノ後ニ至ラサレハ之ヲ與フルナシ

- 一 右試考委員ノ決議若シ試考ノ法又ハ体裁ニ戾レル莫アレハ右十日ノ間ニ大學長官コレヲ大學議會ニ下シテ其可否ヲ議セシムルアリ然ル時ハ大學議會ニ於テ決議スルニ至ラサレハ證書ヲ與ヘス文部上議院ニ控訴スル時ハ文部上議院決議ノ後ニ與フ
- 一 證書ニハ大學長官押印ス

第五十三章

- 一 ヲカローレア、エ、レットルノ免狀ヲ願フ者ノ試考ニハ文科翰林院教頭ノ外ニ理科翰林院ノ

教頭或ハ「アグレジエ」ヲ加ヘテ理科ニ關スル
「試験セシム理科翰林院ノ教頭并ニ「アグ
レジエ」アラサレハ理科ノ博士ヲ加スヘシ

第五十四章

一 試考ノ決議ハ各翰林院ノ長ヨリ大學長官ニ
報ス

一 右決議ヲ大學長官ニ報セル後十日ヲ經サレ
ハ免狀ヲ與フルナシ

一 決議若シ試考ノ法并ニ体裁ニ戻レル「アレ
ハ大學長官右十日内ニ之ヲ大學議會ニ下シ

テ議セシム

一 大學議會ニ下ス時ハ大學議會ノ決議ノ後ニ
免狀ヲ與フ若シ又文部上議院ニ控訴スル時
ハ文部上議院ノ決議ノ後ニ免狀ヲ與フ

第五十五章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行シ而シテ之
ヲ官報新聞ニ記載スヘシ

○第五
一十八百五十年十月七日ノ布告俱
シ公私小學ノ吏

○第一條 私學ノ吏

第一章

一各戸長局ニ別簿ヲ備ヘ置キ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第二十七章ノ條例ニ從ヒ私学校ヲ開カント欲スル教官ノ願文ヲ記載セシム

一私学開校ヲ願フ者ハ同法同章ニ記スル外更ニ左ノ證書ヲ添フヘシ

第一 當人出生ノ證書

第二 學力證書又ハ教育憲法第二十五章第二節ニ示ス如キ學力證書ニ代ルヘキ称号

一右願文ハ戸長局ノ別簿ニ記シ戸長ト願人ト

之ニ押印ス

一右願文ヲ寫シ一月間戸長ノ門前ニ揭示ス

第二章

一戸長ハ右出願ヨリ三日内ニ願文ノ趣ト之ニ添ヘタル諸證書トヲ大學長官ニ送ル

一戸長ハ右三日間ニ自ラ學校ノ地所家屋ヲ檢シ又ハ他人ヲシテ之ヲ檢セシメ然ル後願文ノ謄寫三通ヲ作り願人ニ與フ但シ別ニ手数料ヲ取ラス

一戸長若シ其地所家屋ヲ用耳ルトヲ許ササル

時ハ必故障ノ旨趣ト縁故トヲ願文謄寫ノ餘
白ニ記スヘシ

一 戸長ヨリ與フル願文ノ謄寫三通ノ内一通ハ
檢事ニ出シ一通ハ郡令ニ出シテ收證ヲ取り
其餘ノ一通ハ檢吏ノ收證ト郡令ノ收證トヲ
添ヘテ大學長官ニ送ルヘシ

第三章

一 教育憲法第二十七章末節ニ舉クル定則ノ日
限内ニ戸長ヨリ右揭示セル願文ニ付キ故障
ノ有無ヲ大學長官ニ報ス

第四章

一 大學長官意ニ開校ヲ許スヘカラストスレハ
教育憲法第二十八章ノ條例ニ從ヒ故障ノ旨
趣ヲ願人ニ達スヘシ

一 遅クモ右故障裁判ノ當日ヨリ三日前ニ願人
ヲ大學議會ニ召出スヘシ

一 右故障ハ一千八百五十年七月二十九日ノ行
政規則第二條ノ体裁ニ從ヒ大學議會ニ於テ
之ヲ裁判ス

一 大學議會ノ決議ハ之ヲ謄寫シ大學長官ヨリ

開校ヲ出願シタル區ノ戸長ニ送ル戸長ハ之ヲ願文ヲ記セル別簿ノ餘白ニ誌ス

第五章

一 私學校ノ教官更故アリテ暫時其職ヲ停メラル、時ハ大李議會ノ許可ヲ得テ代人ヲシテ其職ヲ勤メシムルヲアリ

第六章

一 教育憲法第二十九章第三十章及ヒ第五十三章ノ條例ニ從ヒ小學寄宿校ヲ閉ツル時ハ大學長官ト檢事ト相謀リ必其由ヲ生徒ノ父母

又ハ後見人ニ報知スヘシ父母其地ニアラサレハ必暫時生徒ヲ適宜ノ家ニ移シ置クハシ
一 外来生又ハ入塾生ヲ委託スヘキ人アルハ大學長官假リニ其任ヲ命スルヲアリ
一 右ノ任ハ三ヶ月ニ過クルヲアルヘカラス

○第二條 公學ノ事

○其一 公立小學校ノ更

第七章

一 教育憲法第三十七章ノ條例ニ從ヒ其區ヨリ供スル地所家屋ハ開校ノ前ニ「カント」代理

必往テ之ヲ檢シ学校ノ用ニ適スルヤ否ヲ大學議會ニ報スヘシ

第八章

一 數區聯合シテ一校ヲ設クルヲ願フ時ハ郡ノ監察官必其地所家屋ヲ檢シ之ヲ大學議會ニ報スヘシ

一 異論コレナキ時ハ学校保續ノ諸費ハ四種直税ノ比較ヲ以テ聯合ノ諸區ニ賦スヘシ但其割合ハ縣令コレヲ定ム

第九章

一 教育憲法第三十七章ノ條例ニ從ヒ區ヨリ供スル所ノ地所家屋若シ其用ニ適セサル時ハ縣令先ツ大學長官ト合議シ區會ノ説ヲ取リ時宜ニ依リ修覆シテ用ユヘケレハ之ヲ修覆セシメ用ユヘカラサレハ之ヲ用テ禁ス

一 修覆スヘキ時ハ縣令ヨリ命シ日ヲ期シ區費ヲ以テ其工ヲ遂ケレム期日ニ至リテ尚エヲ遂ケサレハ縣令自ラ之ヲ督責スルヲアリ

一 區ヨリ供スル所ノ地所家屋ヲ用テ禁スル時ハ縣令ト大學長官ト相謀リ他ノ地所家

屋ヲ惜リ又ハ教育憲法第三十六章ニ示ス所
ノ方法ニ依リテ學校ヲ設立セシムヘシ
一右要件ノ入費ハ其區ヨリ辨セシム但シ法律
ニ於テ定限アリ

第十章

一毎年大學長官ノ定メタル日限ニ於テ教育憲
法第四十五章ノ條例ニ從ヒ公學校無謝生徒
ノ姓名表ヲ作ルヘシ年中輻湊スル表中ノ改
換モ同章ノ條例ニ從フヘシ

第十一章

一諸宗ノ小兒ノ混入セル學校ニ於テハ各宗ノ
教師其宗ノ教ニ關スルヲ檢ス

第十二章

一一宗ノ小兒ノ為メニ別ニ設ケタル學校ニ他
宗ノ小兒ヲ入學セシムルニハ教官預メ簿冊
ヲ備ヘ置キ其父母又ハ後見人ヲシテ願意ヲ
書セシメ以テ願ニ依リテ此校ニ入學セルヲ
證ス

一右願文ニハ父母又ハ後見人ヲシテ押印セシ
ムヘシ若レ押印スルヲ能ハサレハ教官願文

ニ其由ヲ記シテ之ヲ許可ス

一 學校監督ノ諸員來ル時ハ必此簿冊ヲ示スヘシ

○其二 公學教官ノ吏

第十三章

一 毎年大學長官ヨリ時日ヲ期シ各縣ノ大學議會ニ於テ左ノ表ヲ作ル

第一 區教官ニ任スルノ志願アリテ大學議會モ亦教官ニ任シテ可ナリトスル者ノ人名表

第二 縣内ノ區教官中其職ニ稱フテ其級ヲ進ムヘキ者ノ人名表

一 第二ノ表中ニハ必其教官ノ給料ヲ記スヘシ
一 二表共ニ年中改換スルヲアリ
一 右ノ表ハ縣廳ノ雜誌ニ記載シ且大學長官ヨリ之ヲ教官關乏ノ區ノ區會ニ送ルヘシ

第十四章

一 區會ニ於テ教官ヲ選舉スレハ戶長直ニ選舉書ノ謄寫ヲ大學長官ニ送り大學長官ハ其許否ヲ文部卿ニ建議ス但之ヲ可トスレハ先ツ

假ニ許可ヲ與フ

一文部卿ノ許否ハ必六月内ニ達スヘシ

一文部卿コレヲ許サル時ハ大學長官直ニ區會ニ命シ更ニ他人ヲ選舉セシム

第十五章

一教官病死辭職或ハ他ノ事故ニ依リテ教員出席セサル時ハ大學長官假リニ可ナル者ヲ挙テ以テ代人ノ定ルヲ待ツ

第十六章

一教育憲法第三十三章ノ條例ニ從ヒ暫時區教

官ノ出席ヲ停ムル時并ニ區各校ノ科目ヲ一層進ムルニ付キ暫時旧教官ノ出席ヲ停ムル時モ亦大學長官コレヲ處置シ妨碍ナカラシムヘシ

一右ノ如ク代人ヲ命スル時ハ大學長官教官ニ與フヘキ給料ノ高并ニ其代人ニ與フル給料ノ高ヲ定メ且代人ニハ區教官ノ為メニ供セラル住居ノ全部ヲ給スヘキヤ又ハ其一部ヲ給スヘキヤヲ決定スヘシ

第十七章

一 已ハヲ得サル支件アリテ戸長假リニ區教官
ノ出席ヲ停ムル時ハ直ニ其由ヲ小學監察官
ニ報シ小學監察官ハ二日間ニ必コレヲ大學
長官ニ報スヘシ

第十八章

一 區ノ收税官ハ毎年區會ノ二月集會ノ三日前
ニ前年ノ生徒ノ謝金表ヲ戸長ニ送ル

第十九章

一 區會ハ毎年二月ノ集會ニ於テ翌年ノ入費ヲ
評議ス其目左ノ如シ

一 生徒ノ謝金高

一 教官ノ給料

一 尋常ノ歳入ヲ以テ費用ヲ辨スルニ足ラサ
ル時ノ増税但シ増税ハ第一教官ノ定則給
料ノ最小數二百フランヅヲ辨シ第二定則
給料ト生徒ノ謝金トヲ合シテ教官所得ノ
最小數六百フランヅニ足ラサル者ニ補助
金ヲ與ヘテ此高ニ滿タシムル為ナリ

一 區會ノ決議学校ニ關スル者ハ五月一日前ニ
首府ニ属スル郡ハ直ニ之ヲ縣令ニ送り他郡

ハ之ヲ郡令ニ送り郡令之ニ自己ノ説トヲカン
トシ代理及ヒ小学監察官ノ説トヲ添ヘテ十
日内ニ縣令ニ送ルヘシ

第二十章

一區會ノ決議區内生徒ノ謝金高ニ關スルモノ
ハ縣令ヨリ大學議會ニ下シテ之ヲ議セシム
一大學議會ハ右生徒ノ謝金高ヲ確定シテ縣令
ニ報ス而シテ常會ノ時縣令コレヲ縣會ニ示
シ以テ縣内ノ小学校ニ分配スヘキ額金ヲ議
セシム

第二十一章

一教育憲法第四十五章ニ舉クル無謝入學表ニ
記セサル子女ノ入學スルモノハ寄宿生ト外
來生トヲ論セス皆謝金ヲ納ムヘシ

第二十二章

一生徒謝金表ハ年々更ニ作ルヘシ
一教官ハ一月中ニ表ヲ作りテ戸長ニ送ルヘシ
其表ニハ月初ヨリ出席セル生徒ノ數、未納謝
生徒ノ姓名、各生徒ノ納ムヘキ謝金高及ヒ以
來謝金ヲ納ムヘキ生徒ノ姓名ヲ記ス

一 一家ヨリ數子出席スレハ只一人ヲ記ス
一 戸長ハ右表中ニ無謝生徒混入セサルヤ、納謝
生徒ノ遺漏ナキヤ、謝金ノ課率ハ大學議會ノ
確定ニ符合スルヤ否ヤヲ檢シ然ル後コレニ
檢印スヘシ

一 右表ハ戸長コレヲ郡令ニ送り郡令コレヲ小
學監察官ニ送り小學監察官其意見ヲ述ケル
ヲアリ

一 縣令又ハ其代理郡令ハ右表ヲ決定シテ大藏
省ノ收稅官ニ送り大藏省ノ收稅官コレヲ其

區ノ收稅官ニ送ル

第二十三章

一 謝金ハ每月生徒一年出スヘキ高ノ十二分一
ヲ納メシム

第二十四章

一 三個月ノ末毎ニ補遺表ヲ作り三個月間ニ入
學セル生徒ノ姓名ヲ記ス然ル時ハ入學セル
月ノ初日ヨリ謝金ヲ納メシム

第二十五章

一 數區聯合シテ一校ヲ設クル時ハ教官須ラク

各區ノ別表ヲ作ルヘシ

第二十六章

一 謝金表ヲ出セル後ニ退学スル生徒ハ退学ノ翌月ヨリ謝金ヲ免ス而シテ退学ノ旨趣ハ教官并ニ其父母ヨリ直ニ之ヲ戸長告テ戸長ハ其實ヲ検査シテ其區ノ收税官ニ報ス

第二十七章

一 歳末ニ至リ教官ノ請取リタル謝金ト定則給料トヲ合シテ教育憲法第三十七章ニ示ス所ノ高ニ満ルヤ否ヲ算シ是ヲサレハ之ヲ補フ

テ其高ニ満タシムヘシ

一 右ハ謝金ノ本表并ニ補遺表ニ記スル生徒ノ數ニ依リテ之ヲ算定ス但レ中途退学セル生徒及ヒ無謝生徒ヲ除キテ算スヘシ

第二十八章

一 區ノ收税官ニ與フル手数料ハ一千八百三十七年七月二十日ノ憲法第五章ニ從ヒ謝金ノ本表并ニ補遺表ニ載スル金高ニ比例シテ算ス

第二十九章

一 右手數料ト無謝生徒ノ謝金トハ必皆其區ヨリ辨スヘシ

第三十章

一 謝金表ニ付キ歎願スル箇條アレハ之ヲ片紙ニ記シテ郡廳ノ書記局ニ出ス

一 右ノ歎願ニ依リ全ク謝金ヲ免シ又ハ其額ヲ減スルニ至リテハ戸長トカントシ代理ト郡令トノ説ヲ取リテ縣令コレヲ決ス

第三十一章

一 教育憲法第四十一章第二節ノ條例ニ從ヒ大學議會ヨリ教官自ラ生徒ノ謝金ヲ請取リヲ許ス時ハ大學長官直ニ其趣ヲ郡ノ收稅官ニ通シ郡ノ收稅官コレヲ其區ノ收稅官ニ達ス

一 右ノ如ク教官ニ自ラ生徒ノ謝金ヲ受取ラシタル時ハ此規則第二十二章ニ示スカ如ク謝金表ヲ作り且コレヲ決定スヘシ

第三十二章

一 文部卿兼教部卿及ヒ大藏卿ハ此布告ノ内各

其省ニ関スル事ヲ施行スヘシ

○第六 但シ外國人佛國ニ於テ教育ニ関スル
條例

○其一 外國人佛國ノ私立中小學校

ニ關スル事

第一章

一 外國人ニシテ佛國ノ民權ヲ受有スル者佛國
ニ於テ中小私學校ヲ開キ之ヲ長ト為ルニハ
佛國人ノ為メニ設ケタル規則ヲ遵守スヘシ
但シ預メ文部上議院ノ評議ヲ經テ文部卿ノ

許可ヲ受クルヲ要ス

一 外國人佛國內ノ中小私學校ニ於テ監督或ハ
教員ニ任スル者モ亦預メ文部上議院ノ評議
ヲ經テ文部卿ノ許可ヲ受クルヲ要ス

一 右許可ハ文部上議院ノ說ヲ取リテ文部卿臨
時ニ之ヲ收回スルヲアルヘシ

第二章

一 外國人前章ノ規則ニ從ヒ特許ヲ受ケテ小
學校或ハ中學校ヲ開ク者只自國小兒ノ佛國ニ
在留スル者ノ為メニ設クル時ハ文部上議院

ノ評議ヲ經テ文部卿ヨリ許可ヲ與ヘ學力證書又ハ等級免狀ヲ要セサルヲアリ

第三章

一文部卿ハ文部上議院ノ說ヲ取リ外國人其自國ニ於テ得タル學力證書并ニ等級免狀ヲ以テ教育憲法ニ於テ佛國人ニ要スル所ノ證書又ハ免狀ニ代用スルヲ許スヲアリ

第四章

一外國人著書アリテ文部上議院既ニ其學力ヲ識ル者ハ文部卿上議院ノ說ヲ取リ許可ヲ與

ヘテ學力證書及ヒ等級免狀ヲ要セサルヲアリ

第五章

一一千八百五十年九月一日前ニ規則ニ從ヒ許可ヲ受ケテ私立中學校又ハ小學校ノ長ト爲レル外國人ハ更ニ此布告第一章ノ條例ニ關スルヲナク其業ヲ永續シテ可ナリ

○其二　カール、ピュブリックノ夏

第六章

一一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第七

十七章ニ示ス所ノ大學議會ノ特許若シ外國人ノ佛國民權ヲ受有スル者ニ關スルハ必文部上議院ノ説ヲ取リテ文部卿ヨリ許可ヲ與フベレ而シテ其許可ハ文部上議院ノ説ヲ取リテ文部卿臨時ニ之ヲ收回スルヲアリ

○其三 外國人佛國民國公學校ノ官眞ニ任スル者

第七章

一 外國人ハ預メ歸化ノ證書ヲ得シ者ニアラサレハ區々學校ノ教官又ハ公學校ノ助教小學監

察官小學師範學校長又ハ小學師範學校ノ教

眞ニ任スルヲナシ

一 公立中學校ノ諸官ニ任スルモ亦同シ

第八章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行スヘシ

○第七 一千八百五十年十二月二十日ノ布告但シ私立中學校ノ事

第一章

一 教育憲法第六十四章ノ條例ニ從ヒ大學長官縣令又ハ檢査ヨリ故障ヲ申出ツルニハ其事由ヲ片紙ニ書シ之ニ押印スヘシ

一 右故障ハ大學區書記局ニ出シ大孝長官ヨリ
命シテ公然其由ヲ被告人ニ達セシム

第二章

一 右故障ヲ達セシ後十五日内ニ大學議會其可
否ヲ決議スヘシ但シ大學長官ヨリ命シテ裁
判ノ三日前ニ被告人ヲ大學議會ニ召出サシ
ム
一 決議ハ一个月内ニ大學長官ヨリ被告人ニ達
スヘシ且其故障出訴人ニモ亦コレヲ達スヘ
シ

一 右決議ヲ達セルノ後十五日内ニ原告又ハ被
告人ヨリ控訴セサレハ大學議會ノ決議確定
ト看做スヘシ

第三章

一 大學議會決議シテ公ニ譴責スレハ之ヲ縣廳
ノ處置簿ニ誌シ且其縣ノ裁判新聞紙ニ記載
スヘシ

第四章

一 教育憲法第六十六章及ヒ第六十八章ノ條例
ニ依リ私立中學校ヲ閉サシムル時ハ大孝長

官ト検査ト相謀リ生徒ノ父母又ハ後見人ニ
其由ヲ告ケ又寄宿生ノ父母其地ニ在ラサル
者ハ適宜ノ家ニ移シ置クヘシ

一 右閉校シタル中学校ノ寄宿生或ハ外来生ヲ
委託スヘキ者アレハ大學長官假リニ許可ヲ
與ヘ直ニ大學議會ニ下シテ可否ヲ議セシム
但シ右ノ假許可ハ三ヶ月ニ過クルヲナカル
ヘシ

第五章

一 諸宗ノ教師更故アリテ其業ヲ停止セラレ又

ハ免セラレシ者ハ教育憲法第六十六章第三
節ニ舉クル所ノ免許ヲ典フルヲナシ

第六章

一 私立中學校長ハ皆別簿ヲ作り其校ノ助教又
ハ監督ノ姓名出生ノ月日ト地名并ニ其職名
ヲ誌スヘシ

一 右簿冊ハ學校監察并ニ監督ノ官員コレヲ見
シト欲スル時ハ必コレニ示スヘシ

第七章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行スヘシ

○第八 一千八百五十年十二月二十日ノ布告但シ中学ノスタージユノ證書ノ更

第一章

一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第六十一章ノ條例ニ從ヒ大學議會ヨリ與フル所ノスタージユノ證書ニハ必左ノ件ヲ書スヘシ

第一 當人ノ姓名年齡及ヒ出生ノ地名

第二 スタージユノ初期スタージユ中ノ職名及

ヒスタージユノ年數右ハスタージユヲ卒業セル學校ノ長コレヲ證ス

一 右學校長死去不在又ハ事故アリテ證ヲ取リ

難キ時ハ衆人ノ見聞ヲ以テ證據ト為ス

第二章

一 右證據ハ印紙ニ誌シ正シク押印スヘシ

第三章

一 スタージユハ必佛國ニ於テ卒業スヘシ

第四章

一 スタージユノ證書ハ當人ノ開校セント欲スル縣ノ大學議會ヨリ之ヲ與フ

第五章

一 大學議會ヨリ與フル所ノ「スタージュ」ノ證書ヲ
要セサルノ特許ニハ必其支由ヲ記シ且當人
ノ志願并ニ當人ニ關スル諸紙面ヲ添フヘシ

第六章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行スヘシ

○第九

一千八百五十年十二月三十日ノ布告但シ公私小學寄宿校ノ支

○第一篇 私學教官ノ支

第一章

一 私學教官ノ小學寄宿校ヲ開カント欲スル者

ハ必一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法
第二十七章及第二十八章ノ條例ヲ遵守シ且
同法第五十三章第一節ノ如ク戸長ニ願文ヲ
出スヘシ

一 右願文ニハ必左ノ紙面ヲ添フヘシ

第一 教官出生ノ證書并ニ既ニ婚姻セル者

ハ婚姻締約ノ證書

第二 少クモ五ヶ年間小學寄宿校ノ教員ヲ

勤メシ證書

第三 教科ノ目錄

第四 寄宿校ノ地所家屋ノ圖面

第五 入塾セシメシムル欲ル生徒ノ最大數ヲ

記セル書面

第六 教員并ニ監督人ノ姓名及其出生ノ月

日地名ヲ記セル書面

第二章

一 佛人ノ既ニ五年間小學寄宿校ノ教員ヲ勤メ

シ者同時ニ私學校ト小學寄宿校トヲ開カン

ト欲スレハ一千八百五十年三月十五日ノ教

育憲法第二十七章及第二十八章ノ体裁ト此

布告第一章ノ体裁トニ從ヒ同時ニ其由ヲ出

願スルヲアリ

第三章

一 戸長ハ教官ノ願文ヲ別簿ニ誌ス

一 開校出願ヨリ三日間ニ戸長自ラ學校ノ地所

家屋ヲ檢シ又ハ他人ヲシテ之ヲ檢セシム然

ル後願文ノ寫三通ヲ作り檢印シテ之ヲ願人

ニ與フ

一 戸長其地所家屋ヲ用キルヲ許サル時ハ故

障ノ旨趣ト其事由トヲ願文謄寫ノ餘白ニ記

ス
一 右戸長ヨリ與フル所ノ願文ノ謄寫ニ此規則
第一章ニ記スル諸紙面ヲ添ヘテ願人ヨリ大
學長官檢査及ヒ郡令ニ出スヘシ

第四章

一 其校若シ生徒ノ行狀或ハ衛生ニ害アルカ又
ハ教育憲法ノ條例ニ背クヲアリテ大學長官
開校ヲ許サル時ハ大學長官ヨリ其緣故ヲ
願人ニ達スヘシ
一 遅クモ右故障裁判ノ三日前ニ教官ヲ大學議

會ニ召出ス

一 右故障ハ一千八百五十年七月二十九日ノ行
政規則第二條第二十五章第二十七章及ヒ第
二十八章ノ体裁ニ從ヒ大學議會コレヲ裁判
ス
一 大學議會決議ノ謄寫ハ大學長官ヨリ其區ノ
戸長ニ送リ戸長コレヲ別簿ニ記スル教官願
文ノ餘白ニ記ス
一 開校ノ故障コレナキ時并ニ故障アレハ大學
議會ヨリ開校ヲ許ス時ハ大學議會ニ於テ其

校ノ廣狹ニ應シ之ニ容ルヘキ生徒ノ數ト教員并ニ生徒ノ監督ニ必要ナル人員トヲ決定シ大學長官其決定ヲ學校圖面ノ側ニ記シテ之ヲ與フ而シテ學校監察ノ官員コレヲ見ント欲スル毎ニ教官必之ニ示スヘキ者ナリ

○第二篇 公學教官ノ支

第五章

一此規則第一章及ヒ第三章ノ條例ハ公學教官ノ小學寄宿校ヲ開カント欲スル者ニモ亦通用スヘシ

一右顚文ノ趣ハ戶長ヨリ區會ニ下シ次ノ集會ニ於テ評議セシム

一區會ハ右顚ヲ評議スル前ニ學校ノ地所家屋其用ニ適スルヤ區學校ニ妨ナキヤ否ヲ檢スヘシ

第六章

一大學議會ヨリ與フル所ノ開校免狀ニハ其校ニ入學セシムヘキ生徒ノ數ト教員并ニ校內監察ノ人負トヲ記ス

一大學長官ノ檢印セル學校ノ圖面并ニ大學議

會ヨリ與フル所ノ免狀ハ必其教官ヨリ學校監督ノ諸官負ニ示スヘキ者ナリ

第七章

一 小學寄宿校内ノ諸規則ハ大學議會ノ説ヲ取リ大學長官コレヲ決定シ文部卿ニ稟シ文部上議院ノ評議ニ從ヒ文部卿ヨリ許可ヲ與フ

○第三篇 公私教官ノ通則

第八章

一 生徒ノ行狀并ニ衛生ニ關シ大學議會ノ決定セル規則ニ違背スル者私學教官ナレハ大學

議會ニ召出シ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第三十章ノ條例ニ從フテ之ヲ處置シ公學教官ナレハ同法第三十三章ノ條例ニ從フテ之ヲ處置ス

第九章

一 寄宿校ノ教官ハ必皆簿冊ヲ作り寄宿生徒ノ姓名年齢并ニ入學退學ノ月日ヲ記スヘシ
一 寄宿校ノ教官ハ毎年十一月一日前ニ其校ノ景況并ニ教員監督ノ全員ヲ大學長官ニ報ス

第十章

一寄宿校長ノ教官ヲ兼ル者他區ニ轉居スル時
又ハ同區内ニ於テ居ヲ移ス時并ニ大ニ學校
家屋内ノ位置ヲ變スル時ハ必コレヲ大學長
官ト其區ノ戸長トニ出願シテ更ニ大學議會
ノ決ヲ取ルヘシ

一右願文ニハ必各校ノ圖面ヲ添ヘ且此規則第
四章第五節ニ舉クル所ノ裁可ヲ記スヘシ

第十一章

一各寄宿校ニ別簿ヲ設ケ其校ノ教員監督等ノ
姓名、出生ノ地名、月日、從前ノ職業、從前ノ住所

及ヒ所持セル學力證書、等級免狀、又ハ「スター
ジ」證書ノ月日ヲ記ス

一小學監督ノ官員ハ學校巡視ノ時必右別簿ヲ
檢スヘシ

第十二章

一生徒ノ衛生及ヒ行狀ニ害アル地ノ近傍ニ寄
宿校ヲ設クルヲ禁ス

第十三章

一男女ヲ混シテ入學セシムル小學校ニ寄宿校
ヲ聯合スルヲ禁ス

第十四章

一生徒ノ寢室ハ必別ニ之ヲ設ケ大氣ノ流通ヲ便ニシ廣狹ハ入塾生ノ數ニ應シテ之ヲ定ムヘシ

一夜ハ必寢室ニ燈火ヲ點シヨク監督スヘシ
一食堂モ亦必別ニ設クヘシ

第十五章

一文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行スヘシ

○第十
布告但シ官ノ補助ヲ受ケテ和尚ノ設立スル私立中學校ノ吏

第一章

一教育憲法第六十九章ニ從ヒ區縣又ハ官ト和尚ト條約ヲ結ビ和尚ノ私立中學校ニ家屋ヲ給シ補助金ヲ與フルヲアリ和尚ハ此條約ヲ結フニ和尚ノ稱ヲ以テセスシテ自己ノ姓名ヲ用ヒ又其校ノ首倡ト爲リ自己ノ名ヲ以テ校長等諸員ヲ命ス而シテ私學監督ノ官員ニ對シ責ニ任スヘキハ和尚一人ニシテ必教育憲法ノ條例ヲ遵守スヘシ

第二章

一 文部卿兼教部卿并ニ内務卿ハ此布告ノ内各
其省ニ関スル要件ヲ施行スヘシ

○第十一 一千八百五十一年三月三十日
ノ布告但シ入學免狀ヲ以テ小季
ノ學力證書ニ代用
スヘキ專門校ノ代用

第一章

一 專門校ノ入學免狀ハ左ニ示ス諸校ノ長ヨリ
與ヘシ者ニアラサレハ當今ハ小季ノ學力證
書ニ代用スルヲナシ

一 上等師範學校

一 諸藝學校

一 聖シルノ兵學校

一 山林學校

一 海軍學校

一 聖エチマンス及セアレノ礦山學校

一 エコール、デ、シャルト
ニテ小季
ニテ詳制
ナリ大意

第二章

一 學校長ノ押印セル入學免狀ニハ生徒ノ入學
及ヒ退季ノ月日記記シ生徒モ亦必之ニ押印
スヘシ

一 戸長ハ押印ノ真偽ヲ檢ス

第三章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行スヘシ

○第十二

法一千八百五十二年三月九日ノ憲
布告但シ公學ノ吏

○第一條 教育ニ關スル上等諸官ノ吏

第一章

一 文部上議員、大監察、大學長官、翰林院ノ教頭、コ

レージュ、ド、フランス^ニ學制大意ノ教頭、博物館ノ

教頭、東洋語學校ノ教頭、^ニエウロ、デ、ロンジチュ

ド^ニ學制大意并ニ巴勒府及ヒ馬塞里ノ天文臺

ノ社中、及ヒ公立書庫ノ長ハ文部卿ノ建議ニ

依リ大統領コレヲ照陟ス

第二章

一 翰林院ノ教頭ヲ命スルニハ文部卿コレヲ博

士ノ齡三十年以上ノ者ヨリ選ミ又ハ其科ノ

翰林院ト大學議會トノ請求セル推舉表中ヨ

リ選ミテ大統領ニ上申ス

一 文科、理科、法科、醫科、翰林院及ヒ上等製藥學

校ノ教頭ヲ命スルニハ皆右ノ方法ニ依ル

一 コレージュ、ド、フランス^ニ博物館、東洋語學校、^ニエウロ

、デ、ロンジチュ、ド、巴勒府及ヒ馬塞里ノ天文

臺ノ教頭ノ内欠員アル時ハ其校ノ教頭又ハ
社中ヨリ願人二名ヲ推舉シ碩學社ニ於テモ
亦二人ヲ推舉シ文部卿モ亦著書發明等ニ依
リテ有名ナル者一人ヲ推舉シ以テ大統領ノ
選ニ供ス

第三章

一 文部卿ハ大統領ノ代理ト為リテエコール、ナ
シオナール、デ、シヤルトノ教頭、大學區監察官、
大學議員、醫學及ヒ製藥ノ預備學校ノ官員并
ニ教頭、公立中學校ノ官員并ニ教頭、小學監察

官、公立書庫ノ官員、及ヒ總テ官ニ属スル諸員
ヲ黜陟ス

一 文部卿ハ公立中學ノ諸官員ヲ罰シ控訴スル
所ナカレシム其責罰左ノ如シ

一 大學議會ニ於テ譴責スル支

一 文部上議院ニ於テ譴責スル支

一 等級ヲ降ス支

一 其職ヲ停ムル事

但レ給料ヲ奪ハサルヲアリ又ハ給料ノ
一部或ハ全額ヲ奪フヲアリ

一 免職スル事

一文部卿ハ同法ヲ以テ大學ノ諸官員ヲ罰スル
ヲアリ但シ免職ハ必文部卿ノ建議ニ依リ大
統領ヨリ命スル者ナリ

第四章

一大學長官ハ文部卿ノ代理ト為リ一千八百五
十年三月十五日ノ教育憲法第三十一章第一
節第二節ノ法ニ從ヒ區會ノ説ヲ取リテ區教
官ヲ命ス

○ 第二條 文部上議院ノ吏

第五章

一文部上議院ノ編制左ノ如シ
一機密局ノ内三人
一參議院ノ内三人
一大和尚或ハ和尚五人
一加特力外ノ僧三人
一覆審院ノ内三人
一碩學社ノ内五人
一大監察八人
一私學校長二人

一文部上議員ハ皆年限一年トス
一文部卿ハ上議院ノ議長ト為リ會議ノ日ヲ定
ハ會議ハ少クモ一年二回トス

○第三條 大監察ノ吏

第六章

一 大學大監察八人 文科三人 理科三人 法科一人 醫科一人 アリ皆文
部卿ノ命ヲ奉シテ翰林院、上等製藥學校、醫學
及ヒ製藥ノ預備學校及ヒ文部省管轄ノ理學
校并ニ文學校ヲ監察ス

一 大學大監察ハ「リ」セ「リ」并ニ私立中學校ノ臨

時委員ニ任スル「リ」アリ

一 中學大監察六人 文科三人 理科三人 アリ皆文部卿ノ命
ヲ奉シテ「リ」セ「リ」區ノ「リ」コレ「リ」及ヒ私立中

學校ヲ監察ス

一 小學大監察二人 アリ小學ヲ監察ス其職掌ハ
大學中學ノ大監察ト異ナル「リ」ナシ

一 文部卿ハ文部上議員ヲ兼子サル大監察ヲ上
議院ニ召シ各其職ニ關スル吏ヲ建議セシム
ル「リ」アリ

○第四條 別則

第七章

一 文部上議院ハ次會ニ於テ授教ノ新法ヲ議ス
ヘシ

第八章

一 大學長官ハ已ムヲ得サレハ公立大中學教頭ノ職ヲ停メ直ニ其由ヲ文部卿ニ上申スルアリ而シテ文部卿其可否ヲ決ス

第九章

一 文部省ニ屬スル諸教頭、諸學者、諸藝術家ハ官給アル職ヲ兼帶スルトニ職ニ過クルナシ

一二職ヲ兼帶スル時ハ定則給料又ハ臨時給料ノ總高二万「フラン」ニ至ルナリ

第十章

一 爾後文部省官員ノ隱居料ハ參議院會計局ノ説ヲ取ラサレハ算定スルナシ

第十一章

一 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法條例ノ内此布告ニ抵觸セサル者ハ皆コレヲ存ス

第十二章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行シ而シテ之

ヲ官報新聞ニ記載スヘシ

○第十三 日ノ勅命但シ童男童女小學校并

校ノ少女學

○第一篇 區學校并ニ教官ノ吏

第一章

一教官補ト為リテ少クモ三年間授教シ者又ハ齡二十一年ヨリ以來三年間助教ヲ勤メシ者ニアラサレハ區教官ニ任スルヲナシ

第二章

一 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第二

十五章ノ條例ニ符合スル者ニアラサレハ教官補ニ任スルヲナシ

第三章

一 大學長官ハ教官補ヲシテ人口五百以下ノ區ノ公學校又ハ必要ナル附屬學校ヲ管セシムルヲアリ

一 區教官休暇辭職免職疾病又ハ死去ノ時ハ教官補一時コレニ代ル

第四章

一 公學校ヲ管スル教官補ノ給料ハ生徒ノ謝金

ヲ合シテ一等教官補ハ五百フランクヲ以テ
最小數トシ二等教官補ハ四百フランクヲ以
テ最小數トス

一 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法ニ從
ヒ教官補ニ給料ト住所トヲ給ス

一 區教官ニ代ル教官補ノ給料ハ大學長官ノ一
ヲ定ム而シテ教官ノ給料ヲ減少スルヲアリ

一 二等教官補ハ同校ニ於テ一等教官補ニ登ル
ヲアリ

一 一等教官補ノ數ハ各縣教官補總員數三分ノ

一ニ過クルヲナシ

第五章

一 區教官ノ教育ニ盡カセル者ニハ大學長官ノ
上請ニヨリ文部卿ヨリ補助金ヲ與フルヲア
リ

一 右補助金ノ算計ハ五年間勤仕スル者ハ一千
八百五十年三月十五日ノ教育憲法ニ記スル
最小數六百フラングヲ七百フラングト為シ
十年間勤仕スル者ハ同高ヲ八百フラングト
為シ其他コレニ準シテ算定シ絶ヘス盡カス

ル者ニハ年々此算計ヲ以テ補助金ヲ與フル
ヲアリ

一右補助金ヲ受クル區教官ノ數ハ一大學區内
ノ區教官總員數十分ノ一ニ過クルヲナシ且
一千八百五十四年一月一日ヨリ算シテ滿五
年ニ至ラサレハ決シテ補助金ヲ與クルヲナ
シ

○第二篇 女學校ノ事

第六章

一女學校ハ寄宿所ノ有無ニ拘ラス分テ二等ト

ス

一第一等女學校

一第二等女學校

第七章

一女學教官ノ學力證書ヲ願フ者ハ試考ノ日ニ
當リ齡滿十八年ニ達スルニアラサレハ試考
ヲ受クルヲ許サス

一學力證書ニハ其試考科目ノ等級ヲ記載ス

第八章

一宗門外ノ女教官ハ一千八百五十年三月十五

日ノ教育憲法第二十三章及七第四十八章ニ
記スル女兒教育ニ必要ナル科目ヲ悉ク試考
セル學力證書ヲ所持スル者ニアラサレハ第
一等女學校ヲ管セシムルナシ

第九章

一 男女ヲ混シテ入學セシムル區學校若シ三年
ヲ平均シテ生徒ノ數毎年四十名ニ過キサ
ル者ハ女教官ヲシテ之ヲ管セシムルナリ
一 此布告第四章ニ記スル給料ト住所トノ條例
ハ女教官ニモ亦通用スヘシ

第十章

一 區立女學校并ニ宗門外女教官ノ私立女學校
又ハ宗門會社ノ私立女學校等ニ於テ外來生
ノ教育ニ關スル事ハ一千八百五十年三月十
五日ノ教育憲法第十八章及七第二十章ニ舉
グル諸官員ノ監察監督ヲ受クヘシ

第十一章

一 大學長官ハ婦人ヲ代理ト為シ一千八百五十
年三月十五日ノ教育憲法第五十章及七第五
十三章ノ條例ニ從ヒ宗門外女教官ノ設立セ

ル寄宿校ヲ監察セシム

第十二章

一 宗門會社ノ設立セル女學寄宿校ハ和尚ノ推舉ニ依リテ文部卿ノ命セル僧ヲシテ之ヲ監察セシム

一 右監察ニ關スル報告書ハ直ニ之ヲ文部卿ニ送ル

○第三篇 謝金ノ事

第十三章

一 縣令又ハ其代理郡令ハ學歲ノ末毎ニ「カント

ン」代理ノ建議ト小學監察官ノ說トヲ取り一
千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第二十
四章ノ條例ニ從ヒ翌年各公學校ニ入學セシ
ムヘギ無謝生徒ノ員數ヲ定ム

一 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法第四
十五章ノ條例ニ從ヒ戶長ト諸宗ノ教師ト協
議シテ草ヲ起シ區會ニ於テ決議スル無謝生
徒表ハ決シテ前章ニ言ヘル縣令又ハ郡令ノ
定メシ員數ニ過クヘカラス

一 縣令既ニ無謝生徒ノ人名表ヲ決定スレハ戶

長ヨリ表中ノ各貧兒ニ無謝免狀一枚ヲ與フ
一右無謝免狀ヲ所持セサル生徒ハ區學校ニ於
テ無謝ヲ許スナシ

第十四章

一千八百五十四年以後ハ三个月ノ末毎ニ一
千八百五十年十月七日ノ布告第二十二章ニ
記スル所ノ生徒謝金表ヲ作り三月間ニ出席
セル諸生徒ト各生徒ノ一个月ノ謝金高トヲ
記スヘシ而シテ謝金ハ必全月分ヲ納メシム
ヘシ

第十五章

一文部卿兼教部卿ハ此勅命ヲ施行スヘシ

○第十四

勅命但シ幼稚園學校保護統轄委員ノ

第一章

一文部省ニ幼稚園學校保護統轄委員ヲ置キ皇后

ノ保護ヲ受テ國內ノ幼稚園學校ヲ監督シ且コ
レヲ盛大ニスルヲ司ラシム

第二章

一保護統轄委員ハ專ラ幼稚園學校ハ昌盛ニ注意

スヘシ

一 幼稚學校教育ノ良否ヲ視察シ且新ニ開校ス

ル_一ニ注意スヘシ

一 校内ノ諸規則改正ヲ建議スヘシ

一 校中ニ必要ナル書籍又ハ器械アレハ自己ノ

説ヲ陳_フヘシ

一 幼稚學校ノ貧兒ノ為メニスル寄附金ヲ請取

リ且之ヲ分配ス

一 毎年文部卿ノ命ヲ以テ文部省ヨリ幼稚學校

ニ與_{フル}所ノ補助金モ亦保護統轄委員コレ

ヲ分配ス

一 新ニ幼稚學校ヲ設立シ又ハ之ヲ保續スル為

メニ官ノ補助金ヲ請_フ時モ亦建言スル_ヲア

リ而シテ監察官及ヒ代理長ノ報告ヲ請取ル

ヘシ

第三章

一 幼稚學校保護統轄委員ヨリ出ス所ノ報告書

中國内幼稚學校ノ景況ト需要ノ物件トヲ記

スル者ハ毎年文部卿ヨリ之ヲ皇后ニ進呈ス

第四章

一 幼稚學校保護統轄委員ノ編制ハ下章ノ如シ

第五章

一 セー又縣ノ幼稚學校試考委員ノ長ハ保護統轄委員ニ列ス

第六章

一 幼稚學校ノ女監察及ヒグール、プラチックノ女長ハ保護統轄委員ニ加ハリテ其委任セラレシ要件又ハ總テ幼稚學校ニ關スル事件ヲ説明シ且建議スルニアリ

第七章

一 文部卿兼教部卿ハ此勅命ヲ施行スヘシ

○第十五

教育憲法 一千八百五十四年六月十四日ノ

○第一篇 學政

第一章

一 全國ヲ分テ十六大學區ト為シエー、

ン、ボルドー、カン、クレルモン、ジョン、ズエ、グル

ノーブル、リヨン、モンペリエ、ナンシ、巴勒、ポア

チエ、ランヌ、ストラス、ブール、ツール、グ、ヲ以

テ大學本部トス

第二章

一各大學區ニ大學長官アリ且大學區監察官ヲ
置キテ之ヲ輔ケシム大學區監察官ノ數ハ大
學區内ノ縣數ニ等シ

一セリス縣ノ大學區監察官ノ員數ハ他日決定
スヘシ

第三章

一各大學本部ニ大學議會アリ其編制左ノ如シ

第一大學長官議長

第二大學區監察官

第三翰林院長

第四 三ヶ年毎ニ文部卿ノ選舉スル者七人

一管内ノ大和尚又ハ和尚一人

一加特力宗ノ僧又ハ他宗ノ教師二人

一司法官二人

一地方官又ハ管内名望アル者二人

第四章

一大學議會ハ其管下ヲ督シ文部上議院ノ決議
ニ依リ文部卿ノ布告セル公立大中小學校ノ
諸規則ヲ遵守セシムヘシ

一大學議會ハ區ノ「コレージュ」及ヒ大學

校内ノ支務、會計并ニ管理ニ關スルヲ論議スヘシ

第五章

一 各縣ノ首府ニ教育縣議會アリ其人員左ノ如

第一 縣令議長

第二 大學區監察官

第三 小學監察官ノ内文部卿ノ命セル者一人

第四 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲

法第十章第五節第六節第七節第八節第九節第十節及ヒ第十一節ニ於テ旧大學議會ニ加入セシ人員

但シ選舉法ハ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法ト一千八百五十二年三月九日ノ布告第三章トニ從フヘシ

第六章

一セー又縣ノ教育縣議會ハ左ノ如シ

第一 縣令議長

第二 巴勒府ノ大學長官副議長

第三 セー又縣ノ大學區監察官二人

第四 セー又縣ノ小學監察官二人

第五 一千八百五十年三月十五日ノ教育憲

法第十一章第四節第五節第六節第七節第

八節第十一節第十二節第十三節第十四節

及ヒ第十五節ニ於テセー又縣ノ旧大學議

會ニ加入セシ人員

但シ選舉法ハ一千八百五十年三月十五日

ノ教育憲法ト一千八百五十二年三月九日

ノ布告第三章トニ從フヘシ

第七章

一 教育縣議會ハ小學事務并ニ私立中學校内ノ

規則及ヒ其行政訴訟ノ事務ニ付キテハ其權

一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法ニ示

ス大學議會ノ權ト同シ

一 授教ニ關セル教育縣議會ノ裁決ヲ控訴スル

ニハ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法

ノ條例ニ從ヒ直ニ文部上議院ニ出ツヘシ

第八章

一 縣令ハ公私小學ノ事務ニ付キ文部卿ノ命ヲ

奉シ大學區監察官ノ報ニ依リテ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法及ヒ一千八百五十二年三月九日ノ教育憲法布告ニ記載セル大學長官ノ職務ヲ行フヘシ

第九章

一 大學區監察官ハ縣令ノ命ヲ奉シテ縣内ノ小學業務ヲ管スヘシ

一 大學區監察官ハ大學長官ノ命ヲ奉シテコレ
「^一及ヒ「^リセ」ヲ管シ私立中學校ニ於テ
ハ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法ニ

記載セル大學長官ノ職務ヲ行フヘシ

第十章

一 大學區廳ノ地所家屋并ニ大學議會ト大學長官局トノ所用器具ハ大學本部ノ市街ヨリ之ヲ供ス

一 教育縣議會ニ必要ノ地所家屋諸器具及ヒ大學區監察局ト其局ノ雜費トハ皆其縣ヨリ給スヘシ

一 右諸入費ハ決シテ免ルヘカラサル者ナリ

第十一章

一 大學區分并ニ大學議會及ヒ教育縣議會ノ集會ノ支ハ他日行政規則ヲ決定スヘシ

第十二章

一 此篇ノ條例ハ一千八百五十四年九月一日ヨリ施行スル者ナリ

○第二篇 大學校條例

第十三章

一 一千八百五十五年一月一日ヨリ學者ノ等級ヲ授與スヘキ大學校ハ官ヨリ別ニ補助金ヲ與ヘ預算ハ文部省ノ預算書ニ算入シ出納表

ハ一千八百三十六年七月九日ノ憲法第十七章ノ會計憲法ニ則ルヘシ

一定則ノ額金ハ之ヲ事務施行ニ用ヰテ而シテ殘金アレハ更ニ請取ル所ノ額金ニ附加スヘシ

第十四章

一 學者ノ等級ヲ授與スヘキ大學校ノ姓名記載料試考料及ヒ免狀料ノ表ハ他日行政規則ヲ決定スヘシ

一 等級ヲ授與スヘキ年齡ト學業トハ他日文部

上議院ノ説ヲ取りテ行政規則ヲ決定スヘシ
但シ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法
第六十三章ハ之ヲ改ハルナシ

第十五章

一從來ノ憲法、布告命令并ニ諸規則ノ内本法ニ
抵触スル者ハ爾後皆コレヲ廢止ス
○第十六 一千八百五十四年八月二十二日
勅命但シ大學區ノ事

○其一 大學區分ノ事

第一章

一エーノ大學區ハバス、アルプ縣、ブーシユ、ジエ、ロー

ヌ縣、コルス縣、ヴァル縣、ヴォークリューズ縣ナリ

一ブザンソンノ大學區ハズーブ縣、ジエラ縣、オー
ト、サオーヌ縣ナリ

一ボルドーノ大學區ハドルドーギエ縣、ダロンド
縣、ランド縣、ロー、エ、ガロンス縣、バス、ピレネー
縣ナリ

一カンノ大學區ハカルヴァドー縣、エウル縣、マン
シエ縣、オルヌ縣、サルト縣、セーヌアンフェルエール
縣ナリ

一クレルモンノ大學區ハアリエ縣、カンタル縣、

コレーズ縣、クルューズ縣、オート、ロアル縣、ピニ、
ド、ドーム縣ナリ

一 ジヨンノ大學區ハオーブ縣、コート、ドル縣、オ

ト、マルヌ縣、ニエール縣、ヨンヌ縣ナリ

一 ズエノ大學區ハエースヌ縣、アルダンヌ縣、ノ

ル縣、パード、カレール縣、ソーム縣ナリ

一 グルノーブルノ大學區ハオート、アルプ縣、ア

ルデージュ縣、ドローム縣、イゼール縣ナリ

一 リヨンノ大學區ハエイン縣、ロアル縣、ロース

縣、ソース、エ、ロアル縣ナリ

一 モンペリエノ大學區ハオート縣、ガルド縣、エ

ロール縣、ロゼール縣、ピレネー、オリアンタル

縣ナリ

一 ナンシノ大學區ハムニールト縣、ムーズ縣、モゼ

ール縣、ヴォージュ縣ナリ

一 巴勒府ノ大學區ハシエル縣、エニール、エ、ロアル縣、

ロアル、エ、シエル縣、ロアレ縣、マルヌ縣、オアズ縣、

セーヌ縣、セーヌ、エ、マルヌ縣、セーヌ、エオアズ

縣ナリ

一 ポアチエノ大學區ハシャラント縣、シャラント、ア

ンフェルユール縣、アンドル縣、アンドル、エ、ロアル
縣、デユ、セーヴル縣、ヴァンデー縣、ヴァンヌ縣、
オート、ヴァンヌ縣ナリ

一 ランヌノ大學區ハコート、ジエ、ノル縣、アキニステ
ール縣、イー、エ、ヴァレーヌ縣、ロアル、アンフェルユ
ール縣、メーヌ、エ、ロアル縣、メーヤンヌ縣、セルビ
アン縣ナリ

一 ストラスブールノ大學區ハバーラン縣、オー
ラン縣ナリ

一 ツールーズノ大學區ハアリエジュ縣、アヴェイロ

ン縣、オート、ガロニス縣、ゼル縣、ロー縣、オート、
ピレネー縣、タルン縣、タルン、エ、ガロニス縣ナ
リ

○其二 翰林院并ニ大學校ノ吏

第二章

一 從來ノ翰林院ハ現今所在ノ市街ニ置クヘシ
一 此大學區分ニ從ヒ設立スル者ハ左ノ市街ニ
置クヘシ

一 エーノ大學區ノ理科翰林院ハ馬塞里
一 クレルモンノ大學區ノ文科翰林院及ヒ理

科翰林院ハクレルモン

一 ガエーノ大學區ノ文科翰林院ハズエー同

區ノ理科翰林院ハリール

一 ナンシノ大學區ノ文科翰林院及ヒ理科翰

林院ハナレシ

一 ボアチエノ大學區ノ理科翰林院ハボアチ

エ

第三章

一新ニ翰林院ヲ興スニハ假リニ之ヲ設立シ基
本ヲ建テ以來其市街ヨリ諸費ヲ供スヘキ旨

ヲ證スヘシ而シテ文部卿ノ代理ト區ノ官員
ノ代理ト商議點檢シタル後文部卿ノ意ニ其
家屋大學ノ所用ニ適シ必要ノ書籍器械皆備
具セリトスレハ之ヲ確定ス

第四章

一市街ニ翰林院ノ設ナク「グール」ミユニシポ」校
アリテ理科及ヒ文科ノ稍高等ナル部ヲ教
ル者ハ理科及ヒ文科ノ大學預備校ト稱シ其
市街ヨリ學校ノ地所家屋并ニ授教ノ諸器具
ヲ供シ教頭ノ給料補助金及ヒ諸雜費ヲ辨ス

ルヲアリ

一理科及ヒ文科ノ大學預備校ハ醫學并ニ製藥

預備校ト同等トス

一右預備校ノ教頭ハ文部卿コレヲ選ス即文部

ノ官員ニシテ其權并ニ給與スヘキ物件全ク

文部官員ト等シ

一理科文科預備校ノ生徒ニ「アンスクリプシオ

ン」大學校ノ名簿ニ生徒ノ姓名ヲ記載スルヲ

試験スル時ハ初ノ「アンスクリプシオ」ノ他科ニ

等ヲ返シ與フルヲ許ス而シテ其「アンスクリプ

シオ」ハ文部上議院決定ノ條例ニ從ヒ同科

翰林院ノ「アンスクリプシオ」ニ代用スルヲ

アリ

第五章

一理科翰林院及ヒ理科大學預備校ニ於テ教頭

ヨリ出願シ文部卿ノ許可ヲ受ケ專門實用ノ

講席ヲ開ク「ア」然ル時ハ翰林院及ヒ預備

校ニ於テ試験シ實用理科ノ學力證書ヲ與フ

ル「ア」預備校ノ試験ニハ理科翰林院ノ教

頭ヲ以テ試考官ノ長ト為ス

第六章

一 翰林院ノ教頭ニ任スルニハ必齡三十年以上ニシテ曾テ其科ノ博士ノ級ヲ得且少クモ二年間官學校又ハ私學校ニ於テ翰林院ト同様ノ科目ヲ授教セシ者ヲ要ス

第七章

一 碩學社ノ内六月以上前章ノ如ク授教セシ者モ亦翰林院ノ教頭ニ任スルヲアリ

第八章

一 巴勒府大學區ノ翰林院教頭ニ欠員アル時ハ

之ヲ諸大學區同科ノ翰林院ニ達シ志願ノ者ヲ募リ文部卿ニ申送セシムルヲアリ

第九章

一 文部卿ハ翰林院ノ「アグレジェ」又ハ博士ヲ以テ翰林院ノ教頭補トナス

第十章

一 「アグレジェ」ハ關藝會ニ依リテ之ヲ選舉ス

第十一章

一 「アグレジェ」ハ文部卿ノ命ヲ奉スル者ナリ文部卿ハ其需要ニ應シ一時「アグレジェ」ヲ同科

ノ諸翰林院ニ附属セシムルヲアリ

第十二章

一 現今職ニ在ル所ノ法科翰林院教頭補ノ年限并ニ給料ハ此規則ニ抵觸スル件々ヲ除キ其他皆從來ノ憲法ト行政諸規則トニ從フ

第十三章

一 上等師範學校ニ於テ前三年間卒業ノ生徒ヲ試考シ銳敏ノ者ヲ選ミ別ニ一種ノ級ヲ設ク
一 右別級ノ生徒ハ第四年及ヒ第五年ノ間コレヲ其校ニ置キ或ハ他校ニ入レ又ハ外國ニ遣

シテ修業セシメ以テ文科又ハ理科ノ博士ノ級ヲ得且大學ノ科目ニ習熟セシム

○其三 大學議會ノ事

第十四章

一 大學議會ハ大學長官ノ命ニ依リ一个年ニ二回即六月集會ス而シテ集會ノ日數ハ少クモ八日ニ下ラス多クモ一个月ニ上ラサル事
一 文部卿ヨリ臨時集會ヲ命スルヲアリ
一 六月ノ集會ニハ大學區監察官ヨリ出ス所ノ管内中小學入費ノ計算ヲ檢査ス

一十一月ノ集會ニハ翰林院長ヨリ出ス所ノ各翰林院生徒學業ノ進否并ニ試考ノ報告ヲ檢ス而シテ大學長官ハ右報告中會場ニ於テ讀誦スヘキ條目ヲ預定ス

一大學議會ハ右兩會共一千八百五十四年六月十四日ノ教育憲法第四章ノ條例ニ從ヒ大學長官ヨリ下セル事件モ亦コレヲ論議スヘシ

○其四 大學區政ノ事

第十五章

一大學區ノ官員左ノ如シ

第一 大學長官

第二 大學區監察官

第三 小學監察官

第四 大學區書記官

第十六章

一博士ノ等級ヲ得シ者ニアラサレハ大學長官ニ任スルヲナシ

第十七章

一大學長官ノ職掌左ノ如シ

第一 大學校ヲ管轄シ且コレヲ監督スルヲ

第二 公立中學校ヲ管轄シ且コレヲ監督スル事

第三 私立中學校ヲ監督スル事

第四 小學ノ教則ヲ保護スル事

第十八章

一 大學長官ハ自ラ大學校ヲ管轄シ自ラ之ヲ監督シ或ハ大學區監察官ヲシテ之ヲ監督セシマルヲアリ

一 大學長官ハ意ニ必要トスレハ翰林院ノ會議及ヒ預備校ノ會議ニ出席スルヲアリ然ルハ

ハ大學長官コレヲ議長ト為ル但シ事ノ可否ヲ決スルニ方リ投言スルヲナシ

一 大學長官ハ毎月管内ノ翰林院長及ヒ預備校長ヲ會シ學事全備ノ方法ヲ議セシム

一 大學長官ハ同時ニ諸翰林院ヲ招集シ又ハ各自ニ之ヲ招キテ各科ノ課程ヲ編制セシム

一 右課程ハ大學長官ノ意見ヲ添ヘテ之ヲ文部卿ニ呈ス

一 大學長官ハ大學校各年ノ入費ニ付キ意見ヲ

陳ヘテ文部卿ニ建議ス

一 大學長官ハ翰林院及ヒ預備校ノ説ヲ取りテ生徒ノアンスクリプションニ關スル諸事ヲ決定ス

第十九章

一 大學長官ハ時宜ニ依リ大學區監察官ヲシテ公立中學校ノ管轄ヲ輔ケシムルヲアリ
一 リーセー長及ヒ區ノコレージ長ノ報告ニ大學區監察官ノ説ヲ添ヘテ大學長官ニ出シ大學長官コレヲ月報ニ抄寫シテ文部卿ニ送ル

一 大學長官ハリーセーノ官員及ヒ區ノコレージノ上級教頭ノ進級表ヲ作ル

一 リーセーノメートル、レペチトユー、ル及ヒ區ノコレージノ文典級教頭ニ欠員アル時ハ大學長官志願人ヲ申送ス

一 リーセー及ヒコレージノ額金ニ付キテハ大學長官其意見ヲ文部卿ニ陳フ

一 大學長官巡視スル時ハリーセー及ヒ區ノコレージノ事務官ヲ會シテ事務ヲ議ス

第二十章

一 大學長官自ラ私立中學校ヲ監督シ又ハ大學區監察官ヲシテ之ヲ監督セシム
一 大學長官ハ少クモ一年ニ一回ハ必監察官ヲ遣シ私學校ヲ檢セシム其監察セル事件ヲ略記シテ文部卿ニ送ル

第二十一章

一 大學長官ハ大學區監察官及ヒ小學監察官ヲ遣シ管内ノ公立小學校ノ教則施行ヲ監セシム
一 小學師範學校及ヒ公立小學校ノ教則ヲ改正スベキ時ハ大學長官其个條ヲ文部卿ニ建言スヘシ

一 大學長官ハ文部卿ニ呈スル年報中ニ大學區内公私小學校ノ進否ヲ記スベシ
一 大學長官巡視スル時小學師範學校ノ監督委員ヲ會シ之ヲ議長トナリテ事ヲ議スルヲアリ

第二十二章

一 大學區監察官ハ大學事務公私中學事務并ニ公立小學ノ教則ニ關シ大學長官ト書狀ヲ往

復ス

一 大學區監察官ハ三ヶ月毎ニ其縣内ノ師範學校及ヒ小學校學業ノ景況ヲ大學長官ニ報告ス

一 大學長官不在ノ時ハ「リ―ヤ」及ヒ區ノ「コレ」ノ事務局ト小學師範學校ノ監督委員トヲ會シ大學區監察官コレヲ議長トナリテ評議ス

第二十三章

一新ニ區教官ヲ命シ或ハ之ヲ貶シ又ハ一千八

百五十年三月十五日ノ教育憲法第三十三章ノ條例ニ從ヒ之ヲ罰セシ時ハ大學區監察官其趣ヲ書シ之ニ押印シテ縣令ニ送ル

一 大學區監察官ハ小學ノ事務内檢ニ付キ教育縣議會ノ代理戸長「キユレ」及ヒ公私小學教官ト書狀ヲ往復ス

第二十四章

一 各郡ニ小學監察官一人アリ
一 首府ニ屬スル郡ニ於テハ別ニ小學監察官ヲ置カスシテ大學區監察官自ラ之ヲ兼テ他郡

小學監察官ノ内一人ヲシテ其事務ヲ輔ケ
シム右ハ毎年交番ニ大學區監察官ノ命スル
者ニシテ其大學區監察官ヲ輔クルノ間ハ定
則給料ノ外ニ補助金ヲ與フ而シテ其高ハ文
部卿コレヲ定ムヘシ

一 小學監察官ハ其等大學區監察官ニ次クモノ
ナリ

第二十五章

一 コルス島ノ大學區監察官ハ大學副長官ト稱
シ「リヤー」及ヒ「コレー」ニノ事務并ニ私立中

學監督ノ事ニ付キテハ直ニ文部卿ト書狀ヲ
往復ス

但シ其他ハ本官ノ職掌ト異ナルヲナシ

○其五 教育縣議會ノ事

第二十六章

一 教育縣議員ハ一千八百五十年三月十五日ノ
教育憲法第十二章ニ從ヒ在職三年ヲ限トス

第二十七章

一 教育縣議員ハ少クモ一月ニ二回集會ス
但シ八月十五日ヨリ十月十五日迄ヲ休暇ト

ス

一 臨時集會ヲ為スヲアリ但シ集會ノ時日ハ議長之ヲ定ム

一 教育縣議員ノ集會ハ縣廳ニ於テス大學區監察局モ亦縣廳ニアリ

第二十八章

一 局内規律ニ關スル訴訟并ニ行政訴訟ハ一千八百五十年三月十五日ノ教育憲法ニ基ケル同年七月二十九日ノ行政規則第二十三章第二十四章第二十五章第二十六章第二十七章

及ヒ第二十八章ト一千八百五十年十二月二十日ノ布告トノ體裁ニ從ヒ教育縣議會コレヲ處置スヘシ

○其六 巴勒府大學區ノ別則

第二十九章

一 文部卿ハ巴勒府大學區ノ長官ヲ兼ヌ

一 大學副長官ヲ置キ大學長官ノ職務ヲ輔ケシム

一 巴勒府大學區副長官ノ職掌ハ文部卿コレヲ決定ス

第三十章

一 巴勒府大學區ハル水部ミヅニ大學區監察官八人ヲ

四人シテ法科ホウガ翰林院ハンリンイン及キ醫科イガク翰林院ハンリンイン文

二人シテ理科リガク翰林院ハンリンイン及キ巴勒府ハル理科リガク

一人シテ校務ガク事務シヨ中學チュウガク

右皆大學長官ニ附属ス

一人シテ縣令ケンレイニ附属シテ公コウ私シ中學チュウガク事務シヨニ附属ス

第三十一章

一 文部卿兼教部卿ハ此布告ヲ施行シ而シテ之

ヲ官報新聞ニ記載スヘシ。

理事功程卷之五終